

「上毛新聞」文芸関連記事リスト【3】

大正13年(1924)4月～大正15年(1926)3月

市川祥子

※「上毛新聞」の中から、小説・詩歌等の創作と、文芸に深く関わりと考えられる評論とをリストアップした。今回は、大正13年(1924)4月から15年(1926)3月を対象とした。

※連載は初回のみを示し、(一)に終了日と回数とを付した。

※①は第一面であることを示す。

※夕は夕刊であることを示す。

※①は第一回であることを示す。

※*は判読が不能であることを示す。

大正13年(1924)4月

1日(火)

④謎の国ロシアを横断して(1) 山田九蔵

(～4月5日(3))

④隠れたる震災美談(1) 青山清

(～4月5日(3))

2日(水)

④風吹く日「詩」 古谷野茂登子

④小さいお友達に(1) 大竹好太郎

(～4月30日(2))

④ひるまの月「詩」 高山富三郎

6日(日)

④寂しさに生く 島鶴子

④感覚詩ロンドンの硝子「詩」 岡田刀水士

④土曜日の午後「小説」(2) 吉野陽

(2)から確認

④詩劇円き壺「詩」 清水房之丞

④晩冬の愁「短歌」 天田与一

④水鳥に寄す「詩」 戸井田吉夫

④黎明の雲雀「詩」 雨小路毒二

④欠伸と猫「詩」 浅井羊二

④霧晴の一情景「詩」 佐藤八郎

④人生の舞踊「詩」 茂木忠雄

④夕ぐれ「詩」 柳居晴二

④新こる山「短歌」 蒲谷雀一郎

8日(火)

④兄弟と僕「童話」(1) 太田稠夫

(～4月16日(7))

11日(金)

③農村の振興と蚕糸業の前途(1) 西田博太郎

(～4月12日(2))

12日(土)

④さくらの花「詩」 古谷野茂登子

13日(日)

④英国ロンドンにて 原三郎

④楽音「詩」 岡田刀水士

④この頃の詩「詩」 雨小路毒二

④無題「詩」 松原草平

④春はさびしや「詩」 正田文治

④馬鈴薯「詩」 田口煙月

④街上の夜に、退屈な詩「詩」 上田えいじ

④陽春 春は描く、ホクシヤ「詩」 松山しげ

④胸は高鳴る「詩」 金子茂一

④ゆく冬に「短歌」 小野里照親

④春日抄「短歌」 三島涼葉

④風は上る「短歌」 山口草太郎

④貧しき収穫「短歌」 高山富三郎

④くさぐさの歌「短歌」 後藤福太郎

④越路の春窓「短歌」 船津政太郎

④冬の夜「短歌」 粕川重二

④松村清の遺詠に就て 大沢雅休

④松村清を悼む「短歌」 梨畑花城

15日(火)

⑤上毛美人伝 美男新三(1) 水村

17日(木)

(～5月31日(32))

④思ひ出の記(1) 中山一保 (ゝ5月4日(4) 18日(金))

④教育界当面の諸問題に就いて(1) 東宮七男 (ゝ4月19日(2))

④さくら[詩] 藤田忠雄

19日(土)
④赤いマント[童話](1) 片田江全雄 (ゝ4月29日(7))

20日(日)
④赤いインク 角田皓一

④野ゆき山ゆき[短歌] 角田清二郎

④島村民蔵氏の「子供の生活と芸術」をよみて 吉田緑泉

④案山子[小説] 濠辰巳

④黙涙[詩] 竹の島人

④よた犬詩抄[詩] 清水房之丞

④春日[詩] 中島雨郷

④死[詩] 飯塚治

④朝[詩] 吉田充

④春尖感[詩] 堀川はくあ

④陶酔[詩] 佐藤八郎

④驀進列車[詩] 寂孤村

④夫婦げんか[詩] 斉藤寛司

④兵営生活[短歌] 金子利根太

④新短歌四月号の拾ひ読み 芳太郎

22日(火)

④経済的立場から見た前橋水道問題に就て(1)

吉井錦陵

(ゝ4月24日(3))

25日(金)

④大前橋発展策として街路照明の提言(1) 砂田 (ゝ5月8日(9))

27日(日)
③信州より 北甘閑人

④カーライルのテーストの意味 白石重一

④川原湯の夜[詩] 中島雨郷

④カントと或る青年 文屋六老

④断片語[詩] 入江三木

④旅情を送る[短歌] 吉田洋

④寂しい微笑[詩] 前原美春

④林中の情景[詩] 松山しげる

④民謡二篇 ほんとにぢらす、よして頂戴[歌謡] 暮路京之助

④北国情景[短歌] 金子信三郎

④寂しき春[短歌] 夕暮まさみ

④別後哀唱[短歌] 大槻三好

④旅[短歌] 相川とくを

④雀[短歌] 梅沢周一

④春の歌[短歌] 小野里照親

④東を去る[短歌] 六合村冬子

④酒[短歌] 柳沢千弘

④桜咲く頃[短歌] 田中涼葉

④折々の歌[短歌] 榎田かほる

④春宵集[短歌] 福田喜久治、東光、船津重雄、松月、斉藤寛司、富沢庄次、戸部久一、蒲谷雀一郎

30日(水)

④平松君[詩] 桃井校 荒井政治

④すゞめ[詩] 桃井校 山本一陽

④プラットホームへ立つた私 群馬師六女 永田ふさ

④飢饉の話[童話](1) 倉田潮 (ゝ5月6日(5))

④淡雪[詩] 萩原正 大正13年(1924) 5月 1日(木)

④医薬で治らぬ葉が不思議で治する秘法(1) 吉井錦陵 (ゝ5月2日(2))

3日(土)

④檻樓の花[詩] 神倉長次郎

4日(日)

④演劇論断片 藤田一郎

④黙詩[詩] 上田えいじ

④接骨医と吾々 梅沢錦一

④村人の正義[詩] 永井涙二

④悩める或る女性に与ふ[詩] 飯島勇

④別府にて 豊田宏文

④雑唱[短歌] 鈴木葦舟

④漸く春色漂ふ[短歌] 金子信三郎

④松山とふじ[短歌] 蒲谷雀一郎

④寂寥[短歌] 相川とくを

④しづく[短歌] 高山富三郎

④走り穂[短歌] 藤倉はじめ

④三人集[短歌] 後藤文弥、後藤信三郎、後藤福太郎

④春雨の歌[短歌] 船津政太郎、船津重雄、富沢庄次、新井迷路、萩原香、暁秋

④二つの雑誌 狼火、ともしび

- 6日(火)
 ④ちるさくら「詩」 天笠陽一
 ④春の雨「詩」 古谷野茂登子
 7日(水)
 ④敏子ちゃん 群師六女 今井百合子
 ④ピヨン太郎びん子日記「童話」(1) 福田正夫
 8日(木)
 ④どうせそうでせう「詩」 暮路京之助
 9日(金)
 ④鳥類を愛護せよ 小坂橋秀治
 ④りんご「詩」 東小 宮沢秀雄
 ④ごま「詩」 東小 上原新八
 ④麦畑の羽虫と憂鬱「詩」 上田えいじ
 10日(土)
 ④社会科学研究の必要に就て(1) 原基
 11日(日)
 ④森の笛「詩」 小坂丑作
 ④豊田宏文氏の「別府にて」を評す 飯島勇
 ④美しい娘との対坐「詩」 榎田薫
 ④春されば ある友への手紙 金子茂一
 ④野菊四月号雑感(1) 黒沢丘太
 ④裸婦習作歌日記 大槻三好
 ④死んで一と月「詩」 正田文治
 ④春浅い宵「詩」 中島雨郷
 ④怖れ(上海にて)「詩」 飯塚治
 ④春の臭ひ「詩」 佐藤八郎
- ④夕暮の倦怠「詩」 前原美春
 ④薫風集「短歌」 野に出で、天下孤人／別離 梅沢周一／四月の歌 藤倉肇／近詠抄 木暮厚平／若葉 野口彦衛、春來たる柿沼月歌／病む姉を 婦奈津しげお／あね 新井とみ子
 14日(水)
 ④アルプス 男師附六女 羽生田夏子／「詩」 小犬 同 佐藤清、夕ぐれ 同 吉田光次、あやめ 同 大塚隼緑、かへる 同 佐藤千代子、さくら 同 塚田はま、からす 同 田中くわの
 15日(木)
 ④西瓜盗人「童話」(1) 仲木貞一
 16日(金)
 ③政戦途上にて「俳句」「漢詩」 矢沢亦川
 ④古前橋研究(1) 中島吉太郎、佐藤錠太郎
 17日(土)
 ③生きてゐるもの(1) 蚩舟 (7月5日(24))
 ④冬夜吟唱「短歌」 小野里照親
 ⑥夢か浮世か「小説」(1) 岸浪次郎
 18日(日)
 ④プロレットカルト問題と智識階級に就いて 高山巖
 ④俺 荻原一翁
 ④「狼火」について 同人
- ④妖魔の来る夜「詩」 小林仲艸
 ④山の湯「詩」 高村幹夫
 ④地上の悩み「詩」 松山しげる
 ④寝言寸抄「詩」 飯島勇
 ④深春の丘ゆけば「詩」 金子茂一
 19日(月)
 ②仏教文化の建設(1) 矢吹慶輝(述)
 20日(火)
 ②古前橋研究 昨日史蹟踏査
 21日(水)
 ③三峰詣ふで(1) 山口 (5月30日(7))
 ④指輪「童話」(1) 長谷川時雨 (5月31日(9))
 ④屋根の上 男師附六女 行田斐子
 22日(木)
 ④色白く美しくする初夏の美容法(1) 吉井錦陵
 25日(日)
 ③山から海への旅 高崎高女修学旅行団通信(1) 永井清美、信沢あや、上原、中里見、馬淵いし、小林ヒロ、松本静枝、山口豊野 (5月30日(4))
 ④理性人の悲哀 藤田一郎
 ④蒼白い微笑「詩」 伊藤信吉
 ④暮春哀歌「詩」 前原美春
 ④仁丹の灯「詩」 石川清朗
 ④逃走「小説」 近藤三郎
 ④或る日の蜀山人 飯塚勇
 ④五月の歌「詩」 中島雨郷
 ④すゝらん「詩」 赤石宏

- ④教へ子によする歌「短歌」 豊田宏文
 ④田舎者の歌える「短歌」 小林由一
 ④東を去る「短歌」 六合村冬子
 ④つばめの歌「短歌」 船津政太郎
 ④若葉の里にて「短歌」 藤倉はじめ
 ④初夏詠草「短歌」 斉藤市次郎
 ④わが父「短歌」 野口彦衛
 ④春雑首「短歌」 飯塚幾太郎
 ④折々の教「短歌」 福島しげ子
 ④一首づゝ「短歌」 榎田薫
 ④麦笛「短歌」 新井とみ子
 27日(火)
 ④五月の歌「短歌」 藤井こう二
 ④映画の民衆化について(1) 木暮
 へ5月31日(4)まで確認
 28日(水)
 ③政治的改造論(1) 阪本利郷(へ5月30日(3))
 ③伊香保から榛名へ新緑の高原を行く 茂木
 29日(木)
 ③新緑の伊香保から(1) 北甘閑人
 (へ5月30日(2))
 ④悲しかった日 群師附六女久保貞子
 大正13年(1924) 6月
 1日(日)
 ④私を凝視めて 塩野筈三
 ④飯島勇氏に答ふ友情以上 豊田宏文
 ④忍ぼう「詩」 佐藤八郎
 ④屋上の花火「短歌」 大沢雅休
 ④大胡にて「短歌」 塚越麗一
 ④妙な老人 木名瀬虎雄
 ④思ひ出二つ三つ 倉田修
 ④或る友に 入江三木
 ④牧場の支那少年(1) 茂木のぼる
 (へ6月8日(2))
 3日(火)
 ④日米問題は今の子供に解決せしめよ パーカー
 カースト女史の日本教育視察所感(1)
 (へ6月4日(2))
 ④新月の王子「童話」(1) 楠田敏郎
 (へ6月11日(7))
 4日(水)
 ④世界一の樹の話 遠山薫
 5日(木)
 ④支那の一角に立ちて 山田
 ④蜚物語(1) 江崎理学士(談)
 (へ6月11日(4))
 6日(金)
 ④印度(1) 富田庚子郎
 (へ6月14日(2))
 ④婦人と社交(1) 桑木厳翼
 (へ1)まで確認
 ④野遊び「俳句」 婉外
 ⑤上毛美人伝 善春松丸(1) 水村
 (へ7月25日(32))
 7日(土)
 ③日本アルプスの旅 昨年の体験を記し同好者の参考までに(1) 宮川
 (へ6月13日(5))
 8日(日)
 ④宗教以前純一宗教の誕生(1) 藤田一郎
 (へ6月22日(3))
 ④幻想の雛「詩」 神倉長次郎
 ④水の上「詩」 正田文治
 ④*日抄「詩」 大槻三好
 ④恋愛模索 豊田飯島両君の御主張に対する一考察 水辺春行
 (へ6月13日(2))
 ④彼と女のこと(1) 吉野陽
 ④春雨「詩」 江だかほる
 ④春の野に「短歌」 蒲谷雀一郎
 ④なやみ「短歌」 柳沢千弘
 ④雨の日「短歌」 藤倉はじめ
 ④春日雑詠「短歌」 木暮厚平
 ④若葉の頃「短歌」 三島涼葉
 ④嫁ぎし君「短歌」 新井とみ子
 ④草雨抄「短歌」 泉好城
 ④雑詠「短歌」 天田与一
 10日(火)
 ④山中の寂心「短歌」 船津重雄
 11日(水)
 ③奇勝長トロ(1) 森本
 (へ6月18日(3))
 ③百穴見物記(1) 川田
 (へ6月13日(2))
 ④季節の変化と人の気分 山内繁雄
 ④夏季伝染病の流行と注意すべき衛生事項(1) 吉井錦陵
 (へ6月20日(7))
 ④江戸異聞(1) 品川秋天馬
 (へ6月13日(2))
 ④水鳥集「短歌」 玻知芽、俊夫
 ④鶏ごや 男子附六女 加藤喜美代／「詩」
 タぐれ 敷島校尋五 徳永十四雄、日まはり
 同 辻川孝三郎、鳥、春雨ふる日 同 高

- 橋留吉／五人集「詩」 まつむし 東校四
吉田光次、犬ころ 同 猪野あさ、さくら
人形 同 早川瀬一、すゞめ 同 佐藤千代
子、お星さん 同 佐藤清へコドモノ芸術
12日(木)
④山羊の毛皮「童話」(1) 中沢静雄
(～6月20日(7))
④おばあさんの家 男師附六女 永田ふさ
〈子供の領分〉
④春雨「詩」島之郷 天笠陽一
④水鳥集「短歌」 玻知芽、福島しげ子、加藤
玉子、天下孤人、戸部久一、富沢庄次、福
島三郎
15日(日)
④青春の日に 水村
④茂手木君の肖像(1) 中島晩輝
(～6月22日(2))
④孤独「詩」 田中孝子
④苦闘「小説」 小野里照親
④未開地社展覧会を見て(1) 浜中隣
(～6月22日(2))
④蛸の声音「詩」 清水房之丞
④三日月様、さようなら「詩」 野村光子
④山苺「短歌」 鈴木葦舟
④初夏雑吟「短歌」 木暮香坪
④土の香「短歌」 高山富郎
16日(月)
③対米問題に直面する女学生の心理 本県女
子師範学校で其生徒から徴した答案 本二
船津柳子、同 加藤たま、同 根岸千枝、同
霜田愛、同 半田豊子
17日(火)
④粵堂漫語 組閣当初の精神あくまで持続し
時局に善処せよと尾崎氏語る(1)
(～6月19日(3))
④水鳥集「短歌」 忘無草、斉藤寛司、野村紫
苑
18日(水)
③排日立法と思想問題 本県女教員大会の席
上にて(1) 蟬川新(述) (～6月22日(5))
④夏は訪る 田島健
④元禄女俠客 三好野おさん「講談」(1) 大
河内翠山 (～翌年1月20日(6))
20日(金)
④大正の聖世と群馬県(1) 岡田重郎
(～6月28日(6))
21日(土)
③赤倉温泉より 岡部
④恩を返す話「童話」(1) 高桑義生
(～7月1日(7))
22日(日)
④春の朝 井田左内
④梅雨晴れ、車前草「詩」 暮路京之助
④流れる流れろ「詩」 高橋元吉
④女性の歌 野菊六月号批評(1) 阿部鳩雨
(～6月29日(3))
④赤城の歌「短歌」 船津政太郎、野口彦衛、
富沢庄次、桐原鈴子、野村紫苑、瀬下ミド
リ、高橋義郎
④初夏数題「短歌」 岡庭雀一郎
④移居雑詠「短歌」 鈴木八重花
④夕ぐれ、思慕「短歌」 榎田かをる
④百舌捕り「短歌」 掛川英太郎
24日(火)
④ほたる取る 尋四 他島政男
④雑詠抄「短歌」 泉好城
⑤妙高山下から 岡部
25日(水)
③精神作興の要諦(1) 加藤咄堂(述)
(～6月27日(3))
26日(木)
④ねんねこ歌「詩」 野村光子
④流るゝ小川「詩」 島之郷校 天笠乾一郎
④魚屋の金さん 敷島校尋五 村椿徳三郎 青
木君 同 原久、朝顔 吉田広之
〈子供の芸術〉
29日(日)
③国民よ鎮守の森に集れ 国民の精神を統一
し結束し国家的運動を以て対米問題に善処
せよ 貫前神社坂本宮司(談)
④二つの感想 上田えいじ
④三国峠大般若塚の話 星野菊巳
④「もずの巣」の人々へ 若林二露
④題未定 倉田修
④静かな森がほし「詩」 松山しげる
④若き百姓たち「詩」 神倉長次郎
④劇場の夜にひそむもの「詩」 堀川はくあ

- ④追想の中から「詩」 畑ひろし
 ④骨董「詩」 田中孝子
 ④つつじの花「詩」 前原美春
 ④破損した自画像「詩」 柳田佐七
 ④夕ぐれ、夜、幸「詩」 松浦よし久
 大正13年(1924) 7月
 1日(火)
 ④農村の将来 三たび農村問題を提唱す(1)
 阪本利郷 (ゝ7月12日(9))
 ⑦嗚呼七月一日ノ 越川弥栄
 ⑦七八歳の頃 きら／＼ 光る活字を見て文明
 開化を思ふ 四十年前回顧 遠藤隆吉
 2日(水)
 ④世界一周飛行「童話」(1) 井上康文
 (ゝ7月11日(8))
 ④身辺雑詠「短歌」 木暮香坪
 6日(日)
 ④芸術学序説(1) 藤田一郎 (ゝ7月20日(3))
 ④異端時代の追憶(1) 飯島勇
 (ゝ7月27日(3)まで確認)
 ④奪ふ可らざるもの 小さき感想 夕暮真砂
 美
 ④さぎごけ「短歌」 吉田緑泉
 ④友の歌へる「詩」 木名瀬虎雄
 ④黎明は近づく「詩」 神山康二
 ④朝「詩」 永井涙二
 ④初夏の思出 亀井かずを
 ④郊外篇「短歌」 金井弥吉
 ④丸山公園「短歌」 鈴木八重花
- ④淋しさに「短歌」 高山富郎
 ④燕の歌「短歌」 婦奈津しげを
 ④赤城行「短歌」 沢良路
 10日(木)
 ④すゞめ「詩」 島之郷校 石川武
 ④お月さま 島之郷校 北沢二三
 11日(金)
 ⑤夏の旅より 野州めぐり 宇都宮から(1) 岡
 部 (ゝ7月13日(3)まで確認)
 12日(土)
 ⑤金糸雀の唄(1) 進藤進 (ゝ7月17日(4))
 13日(日)
 ④五月便「短歌」 天田与一
 ④ロダンの接吻「詩」 清水房之丞
 ④蒼い見せ物「詩」 田中愁二
 ④古き壺と泣く「詩」 塩野筍三
 ④心との対話「詩」 赤城根不備男
 ④男の唄へる「詩」 暮路京之助
 ④夢「詩」 佐藤八郎
 ④追想、微風、赤茄子の陽「詩」 戸井田吉夫
 ④のうた「短歌」(1) 星野菊巳 (ゝ7月20日(2))
 ④軍隊の手紙(1) 松村文一郎 (ゝ7月20日(2))
 ④赤城の歌「短歌」(1) 鈴木葦舟
 (ゝ7月20日(2)まで確認)
 ④赤城に登って「詩」 大槻三好
 14日(月)
 ②本県で八釜しい女教員の服装問題に就て
 松永聡司(談)
 15日(火)
- ③古前橋史蹟(1) 中島吉太郎、佐藤錠太郎
 (ゝ8月2日(12))
 16日(水)
 ④飲料水の価値と清浄法(1) 吉井錦陵
 (ゝ7月19日(4))
 17日(木)
 ④小さな下駄「童謡」 ひろし
 18日(金)
 ③神様と金のお芋「童話」(1) 鈴木澄子
 (ゝ7月24日(5))
 ⑤今年是小作争議起らふ地主は眼覚めて其
 小作人の思想善導 清水高崎署長(説)
 ⑤毛野国の文化を語る 八幡山の古墳 丸山
 瓦全(談)
 20日(日)
 ⑤勝利を信じて「詩」 畑広治
 ⑤サヨナラ「詩」 八島草三郎
 ⑤眼医者 of 悲しみ「詩」 上田えいじ
 ⑤水をなめたる夢「詩」 佐藤八郎
 ⑤月の出ない夜「詩」 茂木忠雄
 ⑤髪 泉好城
 ⑤現身寂情「短歌」 鈴木八重花
 ⑤郊外篇「短歌」 金井弥吉
 ⑤撫子の歌「短歌」 富沢しよじ
 ⑤すゞめ「短歌」 新井とみ子
 22日(火)
 ⑤女教員の服装が問題になった勢多の女教員
 代表者協議会 結局来春から洋服に
 23日(水)

- ④「詩」 ほたる 東校 田中くわの、とつか
んぼう 同 浅見あき、星 同 佐藤清、三
日月 同 佐々木瑳五郎、夕ぐれ 同 富沢
秀雄
〈子供の芸術〉
- ④潮来にて 登丸栄一
- 24日(木)
- ③童謡講習の曲目の一二 松美佐雄
- ④女学生達は海へ山へ行く心を鎮め今後の為
に働て下さい 岩佐栄子(談)
- 26日(土)
- ③ひよどりの声「童話」(1) 倉若梅二郎
(〜8月6日(7))
- ④日本品は立派に舶来ものを凌ぐ洋装の
人々に申したい事 佐賀ふさ
- 27日(日)
- ④ふたりの会「短歌」 梨畑花城、赤城馬平
- ④本間久雄氏を迎ふ 浦野芳雄
- ④萌ゆる頃「詩」 井田夢酔
- ④頭の悪い日に書いた断片 紅屋ええむる
- ④旅にて「短歌」 柳沢千弘
- ④団子と氷 木堰一郎
- ④祈られずある神「戯曲」 白石重一
(〜8月3日(2))
- ④吾子「短歌」 鈴木葦舟
- ④ひばりの子「詩」 島之郷校尋五 金子芳雄
- ④芽だした「詩」 島之郷校尋五 岡田武志
- 28日(月)
- ②対米問題と吾人の覚悟(1) 安藤正純(述)
(〜8月8日(7))
- ②別世界に住む感のする水泳中の気持 水に
対する尊敬と喝仰 岡倉高師教授(談)
- ③小学生徒の童謡舞踊は都会の流行を趁はず
に農村の児童に適当に地方色を加味し指導
林体育主事(談)
- 29日(火)
- ④胸膜炎「小説」(1) 星野菊巳
(〜10月1日(4))
- 30日(水)
- ④写生 敷島校尋五 横地東、よつばらひ
同 徳永十四男／「詩」 草かり 室田校尋
六 久森と代、ほし 同 佐藤えん、柳の小
えだ 同 石倉根朝次、お地さう 同 小山
茂一郎、しらぬまに 同 中島正子
〈コドモの芸術〉
- 大正13年(1924) 8月
- 1日(金)
- ③湯宿より 刀水
- 2日(土)
- ③飯岡の海より(1) 緑泉、聴濤
(〜8月15日(9))
- 3日(日)
- ④歯 倉田修
- ④原勢ガーデンにて抒情詩展をみる記 清水
房之丞
- ④山道「詩」 大槻三好
- ④晶玉集「短歌」 日雨 塚越麗一／徒然
鈴木葦舟／山村莊低唱 鈴木如友／雑詠九
首 倉田春造／松蟬なく頃、春深む 鈴木
- 八重花／のどか、曇り日 三島涼葉／山の
湯吟 天田与一／月夜之路 藤倉肇／越後
にて 柳沢千弘／のうた 星野菊巳／郊外
篇 金井弥吉
- ④ひぐらし集「短歌」 加藤流水、船津政太
郎、高橋加津二、橋爪兼吉、新井迷治、田
野由次、斉藤市次郎、松村、加藤織馬、斉
藤寛司、加藤玉子
- 6日(水)
- ④花のお話 室田校 耕潮
- ④一口ばなし 茂子
- ④ほたる 室田校尋二 佐藤一郎、私の妹 同
中沢貞作、赤んぼう 同 尋三 大塚和男、
箱庭 同 関玉枝、蛩とり 同 尋四 新井護
叱られた晩 同 尋六 中曾根フミ、朝鮮人
同 須永賢三郎、遠足の記 同 尋五 小池は
ま子／「詩」 子馬 室田校尋二 宮下美代
子、雨 同 小池龍男、雀 同 関ヨシエ、
ぼうや 同 尋三 亀田シズ子、さゝ舟 同
富岡まさ子、雪 同 下田卯市、ぢさう様
同 島崎三郎
〈子供の芸術〉
- 7日(木)
- ③創業の昔を顧みて(1) 篠原本社長(談)
(〜8月8日(2))
- 8日(金)
- ④世界の農村 序説日本とフランス(1) 阪本
利郷
(〜8月14日(4))
- 9日(土)
- ③貴族院制度改正私見(1) 清水留三郎

③豚の王様「童話」(1) 福原たけし
(8月14日(4))

⑤上毛美人伝 犠の生首(1) 水村
(8月16日(6))

10日(日)
④芸術作品に於ける社会性(1) 藤田一郎
(8月24日(3))

④旅愁(長瀬の思出)「詩」 正田文治
(8月24日(3))

④漫語 夏帽子 セイラー

④大森より 橄欖の復活に就いて 吉植庄亮

④郵便車「詩」 ちかのすけ

④ある犠牲者 泉好城

④旅の歌「短歌」 星野菊巳

④仙人掌に花さく頃「短歌」 田野由次

④哀唱「短歌」 藤倉はじめ

④苗代田「短歌」 岡庭雀一郎

④折々の感じ「短歌」 後藤福太郎

④蟬の歌「短歌」 船津重雄

④旅で歌へる「短歌」 高田

④つゆしぐれ「短歌」 斉藤市次郎

④新葉会詠草「短歌」 初夏 藤幸、鳴舟、玉

洋、仙花／白 流水、藤幸、蛍影、迷舟／

魚 流水、翠葉、仙花、紫水

13日(水)
④現代の主婦と家庭経済の改善 我国刻下の

重大問題 気賀勘重(談)

④「詩」づくだま 島の郷校 青木一之、ば

んぼん鳥 同 須藤寅一／秋をまつ 城南

校 安田ひろし

〈子供の文芸〉

15日(金)
④師範教育の改善要点と対策 野口明(談)

17日(日)
③童話歌劇 十六夜の鐘「戯曲」(1) 日出野

百合
④午後三時「小説」 長島健司
(8月28日(8))

④芸術家と階級文学 死迷路一線

④純情の所有者よ「詩」 松山しげる

④小さな人生「詩」 田中愁二

④虐げられしもののなげき「詩」 前原美春

④暁の太陽「詩」 清水育郎

④だゝつ広い「詩」 砂原毒泉

④画家の詩、夏の夜「詩」 よし久松浦

④夏の風「詩」 晩秋

④女の唄へる「詩」 京之助

19日(火)
④夫婦間の子供と物の価値論 小林丑五郎

20日(水)
④日本人の音声は一番美しい 小林光茂(談)

④一つ星さん「詩」 大槻三好

④夕ぐれ 室田校尋六 真下信一、秋の夕暮

同高二 島方しま、いなごとり 同尋二 西

山仲三、霜 同 木暮寅吉、秋の野 同高二

大沢とき／「詩」 秋の田 室田校尋五 広

瀬賢三郎、着物 同尋四 久保フク、お月さ

ん 同尋五 吉田久枝、へこちゃん 同尋六

佐藤芳太郎、野ぎく 同尋五 萩原トモ、た

こ 同尋四 三木利文治／「俳句」 虫干し

室田校高二 高木なを、月 同 片桐とり、

七夕 同尋四 小池はま子／「詩」 新しい

下駄 島の郷校 木村孝夫、初夏 同 石川

武、かへる 同 岡田たけし、夜 同 小島

芳郎、雨のてふく 同 木村正俊

21日(木)
④水道敷設問題は前橋を中心として考たい(1)

吉井錦陵
(8月23日(3))

④手向草 純子

22日(金)
④ルネッサンス大運動 郷土芸術の提唱者(1)

阪本利郷
(8月26日(3))

24日(日)
④わび住みの二階に病みて「短歌」 塚越麗

泉

④幸福への道 露とひなげしとの対話 夕暮

まさみ

④芸術的価値 金井弥吉

④詠めざる歌人「詩」 井川純

④四万途上「詩」 中島雨郷

④食を奪はれるもの「詩」 塩野筍三

④夜の誘惑「詩」 茂木のぼる

④異端者の朝「詩」 森みどり

④小唄集「歌謡」 上州は煙の歌、旅の歌 け

ん三

④夏空「短歌」 鈴木八重花

④早天雑吟「短歌」 木暮香坪

- ④哇葡萄「短歌」 田野由次
 ④草とり「短歌」 亀井かずを
 ④七月集「短歌」 小野里照親
 26日(火)
 ⑤軽井沢より(1) 北甘閑人 (〜8月28日(3))
 27日(水)
 ④農村の急務は小作権の制定 地主と小作人が安心して耕作し得る唯一の方法
 ④新葉会詠草「短歌」 蟬 流水、螢影、藤華／陽 翠葉、守二、流水、藤華／雜 翠葉、守二、流水、藤華
 28日(木)
 ④花「詩」 内野健児
 ④田中と裸舞(1) 東宮七男 (〜8月29日(2))
 ④上毛歌壇「短歌」 秋の赤城山 森太喜治、高橋義郎、斉藤市次郎、福島三郎、野口彦衛、金井弥吉
 29日(金)
 ③古前橋研究資料 前橋十二景と観民亭に關して 酒井稚樂頭が書きのこした古文書
 ③水戸遊記 香雨老人
 ③パンタの日記「童話」(1) 井上不路子 (〜9月11日(9))
 ④大震災一周年を迎へて 多くは平常の気分実に變つた国民 一周年に際し在邦米國記者の眼に映じた日本 小崎弘道(談)
 ④伐乗の歌「詩」 けん三
 ④上毛歌壇「短歌」 榛名にて 加藤流水、大野滴露／川崎にて 船津政太郎／橋爪榛泉、宮沢しよぢ／大阪にて、大和より 高田 田
 ⑤草津まで(1) 北甘閑人 (〜10月19日(29))
 30日(土)
 ④大震災一周年を迎へて 愛の文明の萌芽 此の意味に於て記念せよ 高橋順次郎(談)
 ④人生「詩」 赤城根不備男
 ④すべての過程 田野由次
 ④上毛歌壇「短歌」 野口市郎、山田曲成、梅沢周一、川端刺青、矢島三郎、須田三畏、掛川英太郎、田島夕陽、伊藤鈴子、宮下安太郎、羽鳥辰之助、木村武重、勅使河原汀星、大堀花穂、掛川碧穂、辰巳秋城
 31日(日)
 ③震災一年回顧 未曾有の災厄に処した意氣と緊張とを想起し以て拳國一致勤儉力行の実を収めよ 池田宏(談)
 ④おくりもの「詩」 川辺潤三郎、中村芳太郎
 ④ダダ 田中愁二
 ④上毛歌壇「短歌」 榛名にて 橋爪榛泉／加藤流水、小林つる子、大野滴露、野村光子
 ④風窓独語(1) 茂木寛 (〜9月2日(2))
 大正13年(1924) 9月2日(火)
 ④薬湯(1) 田野由次 (〜9月3日(2))
 ④上毛歌壇「短歌」 新井迷治、小野里照親、金井弥吉
 3日(水)
 ④結婚上の矛盾 著しく目立つ婚姻訴訟
 ④おはぐろとんぼ「詩」 ***
 ④欧米視察の途へ 最上政三
 ④飯岡拾遺「短歌」 聴濤
 ④四万の月夜「詩」 大槻三好
 ④上毛歌壇「短歌」 小林桃夢、福島三郎、斉藤覚司、関根四五郎、岡田清、中沢胡村
 4日(木)
 ④軍事教育は小学校には不要
 ④火の燃える国 若き乙女達ちに与へる「小説」(1) 茂木近之助 (〜9月10日(6))
 ④書簡 長谷川零余子
 ④絶叫「詩」 おぎはら
 ④上毛歌壇「短歌」 掛川碧穂、亀井一夫
 5日(金)
 ④都市と田園を法律上から批判 貨幣を通じての文化程度(1) 末広巖太郎(談) (〜9月7日(3))
 ④愚感 中村芳太郎
 ④上毛歌壇「短歌」 秋に入る 草野露二／北沢定子、土屋千代子、新井迷治、田島武夫、土屋栄雄、伊能彦造
 6日(土)
 ③謎の仮装(1) 米国 カザリン女史 (〜10月3日(14)まで確認)
 ④上毛歌壇「短歌」 田島孤想、中沢胡村、大島守夫、黒沢豊朔、赤城根不備男、船津重雄、高橋紫重
 7日(日)

④雨降り鳥「詩」 高山富郎

④上毛歌壇「短歌」 金子利根太、小林つる

9日(火)

④賀川豊彦氏と語る(1)

(～9月11日(3))

④旅の句 中川秀柏

④高崎夏季大学を観る(1) 浦野芳雄

(～9月10日(2))

④上毛歌壇「短歌」 富田良子、柏木清山、橋爪榛泉、長岡城花、小林喜市

10日(水)

④復らぬ頃「詩」 森みどり

④加藤某の醜態 水野村吉

④上毛歌壇「短歌」 田島武夫、小林良雄、青木蔵、多留美仙子、泉好城、浅見古都、中島みどり

11日(木)

④芸術教育に就いて(1) 大沢雅休

(～9月14日(4))

④雑感(1) 角田恒

(～9月12日(2))

④無用語 藪野椋鳥

④海「詩」 上波梅子

④上毛歌壇「短歌」 罪 町田清三郎、倉田春造／宮沢しよ路／大光院 大野滴露、瀬下定泉、野村光子、小野孤山、小林桃夢、宇貫洗崖、加藤織馬、高橋義郎、斉藤寛司、青葉薫

12日(金)

④秋の夜「詩」 伊藤正一

④分裂し行く者へ「詩」 飯野雅倫

④上毛歌壇「短歌」 加藤流水、藤倉肇、福島三郎、星野荒治、小黑踊子

13日(土)

④群馬県に緊急を要する衛生施設 吉井錦陵

④女人小路雑記 阿仁墓蘭哉

④亡き友について OEX

14日(日)

③お猿の改心「童話」 青島俊吉

④悪阻 武阜一

④断末魔「詩」 梅津泰助

④高原の秋 野口善氏に捧ぐ「詩」 小林仲艸

④上毛歌壇「短歌」 草野露二、大森一雄、金井弥吉、林与志雄、岡田宝司、落原憲二

16日(火)

④憂慮すべき農村の五大問題 自作農減少 小作農増加 農村の電化 労力と人口 高島帝

国農会幹事(談)

④百姓の唄「詩」 土屋与志緒

④野反まで「短歌」(1) 神保冷平

(1)まで確認

④上毛歌壇「短歌」 松沢ゆう子、倉田照子、島崎直子、田島武夫、多数丸、浅見古都／

四万温泉にて 加藤泰次／碓井武寿、都丸一雄、梅沢義雄、中島みどり

17日(水)

④感想 山峡より(1) 橋爪榛泉

(～9月18日(2))

④上毛歌壇「短歌」 渡辺ひろう、野口静枝、秋山菊枝、中島みどり、青木輝生、馬場朋

一、小川、小黑踊子、関藤次郎、長井やす子、本間詩人、萩原けい、真下栄一郎

18日(木)

③奥利根の旅(1) 刀水

(～9月25日(5))

④世界の支那(1) 山田九蔵

(～10月22日(4))

④秋の風「詩」 卓二

④上毛歌壇「短歌」 吾子生る 木暮香坪／秋は淋し 岡田清／八崎鉦泉にて 伊能彦造／野村紫苑

19日(金)

④音楽雑話(1) 根岸時雍

(～9月20日(2))

④「大街道」を見て M

④上毛歌壇「短歌」 星野凉咲／秋雨 新井迷路／金井いちじ／空虚 斉藤市次郎／本間若人

20日(土)

④上毛歌壇「短歌」 田中直司、田島武夫、船津政太郎、高橋義郎、森山皮留子／赤城神社にて 萩原品蔵／沢下夏代、池田久子

21日(日)

④郷土文化と其芸術(1) 茂木近之助

(～9月23日(2))

④金の鈴「詩」 小島松太郎

④上毛歌壇「短歌」 岡田清／秋雨 橋爪榛泉／川原湯にて 田島武夫

23日(火)

④上毛歌壇「短歌」 福島三郎、大原野博、田村賢一、北沢定／大光院 大野滴露／斉藤寛司、登丸一雄、萩原清一郎

25日(木)

- ④吉井錦陵君に質す 群馬県に緊急を要する衛生施設を讀みて(1) 矢沢馨三
(9月26日(2))

- ④子規逝いて二十三年(1) 九品太
(9月26日(2))

- ④上毛歌壇「短歌」清水基美、野口ひこゑ、コスモス、真下栄一郎、中島竹子、斉藤寛司、野村光子、瀬下定三、茂伸
26日(金)

- ④上毛歌壇「短歌」柳沢君江、大沢チヨウ、石川竹緒、原正雄、野口彦衛、中島みどり、庭山正二、田村宜一、草野露二、馬場朋一
27日(土)

- ④近頃美談 北甘閑人

- ④十五夜お月さま「詩」

28日(日)

- ④農民離村の一研究 恩師末広先生膝下に捧ぐ(1) 中村元治
(10月11日(10))

- ④心の唄「詩」 島吉之助

- ④拋物線状の風に青葉を焚く「詩」 かつらぎ亮

- ④かれ「詩」 佐藤八郎

- ④暮るゝ湖「詩」 島崎迷草

- ④上毛歌壇「短歌」林卓爾、藤倉肇、田島孤想、高井繁次／大光院 大野滴露／土屋隆一、清水しげ子、碓井武寿、馬場朋一、林与志雄、本間若人
30日(火)

④秋風雜記 堀川秋吾

- ④天然風呂「詩」 中島雨郷
大正13年(1924) 10月
1日(水)

- ④旅に出て 茂木のぼる

- ④路上の饗餐「詩」 伊藤正一

- ④上毛歌壇「短歌」小暮正美、清水基美、新井明治郎
2日(木)

- ④ひびつき「詩」 森みどり

- ④村上蛸魚先生(1) 浦野芳雄(10月15日(11))

- ④北越より 田島健

- ④上毛歌壇「短歌」加藤残馬、田島武夫、中島みどり、小林ゆめ太、岡庭政雄、堀江亮一、野崎新一、松波幸三郎、中村国梁、大淵妙子、堤秀夫、松山菊枝
3日(金)

- ④小学校に於けるメートル式度量衡の教授法に就て(1) 木下龍雄
(10月10日(4))

- ④上毛歌壇「短歌」品川茂治、高橋義郎／朝夕のいのち 森太喜治／病める友 岡田清／青木勝太郎、福田喜久治、平形光子、青木輝生、上村原要
4日(土)

4日(土)

- ③新嘉坡より 最上政三

- ④上毛歌壇「短歌」石川たけを、室咲晃二、石川竹緒、船津重雄、外山留加、岡田くに、町田香山、田村宜一、周東次郎、橋爪榛泉、中島胡村

5日(日)

- ③ばたびや丸より 清水留三郎

- ③開通記念 上信電車数歌 北甘閑人

- ④沿道の名勝古跡 毛の国の文化を語る上毛三古碑其他旧跡
7日(火)

7日(火)

- ④向日葵の種子 F子に送る「短歌」(1) 茂木幹

- ④上毛歌壇「短歌」船津重雄、稲川文子、中野渡石、登丸一雄、萩原香、田島武夫
8日(水)

8日(水)

- ④上毛歌壇「短歌」岡田清、青木美万、小野孤山、田島武夫

- ④秋 倉田修

- ④異端者の悩み「詩」 小林津樓

- ④秋の感触「詩」 室咲晃二

10日(金)

- ④三人集「詩」 くり 唐沢作次郎／さぶね 田中くわの／ふうりん 宮沢秀雄

- ④上毛歌壇「短歌」梅沢元録、杉本白草、亀井かつを
11日(土)

11日(土)

- ④或小春日に 木名瀬虎雄

12日(日)

- ④会津若松をさして 田島健

- ④上毛歌壇「短歌」清水基美、土居栄雄、田村宜一、富沢しよ路、瀬下定三、万津枝、庭山政二
14日(火)

14日(火)

- ④秋来る詩「詩」 柳田敏造
 ④最後の対話 角田皓一
 ④春日秘唱「短歌」 鈴木八重花
 ④上毛歌壇「短歌」 近岡えい路、新井迷路、松本章三、岸きのゑ、橘陰、やなぎ、松浪幸三郎、浅見古都
 15日(水)
 ③普通選挙断行に直面して(1) 木暮正一
 ④感ずる心、味ふ心(1) 小暮正美
 ④現代文学瞥見(1) △△
 16日(木)
 ④判らぬ世の中(1) 堀内信水(述)
 ④偶感(1) 亀井かずを
 ④上毛歌壇「短歌」 奈良健三郎、岡田東州、小林彦七、有水萍果、中沢胡水、浅野古都
 ④枯野系の句会 二日太田町で
 ⑤やかましい労働問題 研究は海外の方が真面目で実行的 改善の点が多い日本 荒山工場課長(談)
 17日(金)
 ③高尾山より 北甘閑人
 ④秋 倉田修
 ④上毛歌壇「短歌」 野村紫苑、草野露二、大野滴露
 19日(日)
 ④如何にして実務を処理すべきか(1) K K
- ④東山温泉(1) 田島健
 ④上毛歌壇「短歌」 藤倉肇、新井とみ子、斉藤市次郎、角田恒次、保野田鶴雄、斉藤吉雄
 20日(月)
 ③詩人大使クロードル氏 榛名伊香保の秋色に旅情を慰さむ 氣に入った富士の暮色
 22日(水)
 ④愛の表現に対する一考察 飾る事と遊ぶこと(2) 仲木貞一
 ④磯部草丘君はいつまでも無名作家ではない 登丸栄一
 ④上毛歌壇「短歌」 笠原金十郎、新井迷治、福田喜久治、大野滴露、田島武夫、処友、山口伊登子、丸山義一郎
 23日(木)
 ③明るい川の底「童話」(1) 福田正夫
 ④不満を感ずる労働者の信仰 宗教意識が繊細に働く為に無宗教が多い
 ④愛は野に遊ぶ「詩」 橋爪榛泉
 ④上毛歌壇「短歌」 永井淳、岡田俊子、星野晴男
 25日(土)
 ④「日本思想の新潮流」を讀みて(2) 茂木
 ④上毛歌壇「短歌」 松本章三、登丸一雄、波瑠子、庭山政二、石川竹緒、福島三郎、小林仲艸、石井通好、荻原優香、中沢芳盧、
- 中島みどり、青木輝生、清水基美、杉本白草
 26日(日)
 ④所謂雑文記 横地正二郎
 ④カフエー「詩」 田中愁二
 ④芝根歌会詠草「短歌」 小鮎千枝、萩原千代、木村武重、野口市郎、高橋由利、中村芳太郎、梅沢周一、大沢雅休、勅使河原汀星、大堀花穂、川端刺青、宮下栄二郎、山田曲成、宮下安太郎、辰巳愁城、小林康雄
 ④夜明、親のためだと、すいちよすいちよと、十九はたちは「詩」 大関五郎
 28日(火)
 ④大概三好のこと 個展を中心として(1) 清水房之丞
 ④計画者 木名瀬虎雄
 ④破芭蕉句会「俳句」 自然人、亀鶴、山僧、耕草、芳水、撫子
 29日(水)
 ④農村革新と産業組合(1) 石田伝吉
 ④愛の国境から、晴れた日の小供「詩」 畑広郎
 ④車走「詩」 佐藤八郎
 ④上毛歌壇「短歌」 福島三郎、草野つゆじ、宮沢しよ路、大野滴露、真下栄一郎、石川たけを、平形光子、宮沢富出子、山石三路、青木茂伸
 30日(木)

- ④地震で逃げだした椅子と机「童話」(1) 井上康文 (11月12日(10))
- ④「カントの哲学と現代の教育」を読むで(1) 冷洋 (11月2日(2))
- ④桐生川雑筆 制作日誌(1) 大竹好太郎 (11月2日(2))
- ④旅「詩」 江破満朗
- ④上毛歌壇「短歌」 木暮香坪、伊能彦造、小川一郎、野口彦衛、堀江宵月
- 31日(金)
- ④菊の歌「詩」 香川景樹、飯田年平
- ④上毛歌壇「短歌」 高橋義郎、稲川多子、草野つゆじ、瀬川紅夢
- 大正13年(1924) 11月2日(日)
- ③香港より 清水留三郎
- ④紅色の花「詩」 柳田敏造
- ④上毛歌壇「短歌」 中山輝月、島崎迷草、石川たけを、斉藤寛司、大野滴露、青木茂伸、山石三路
- 4日(火)
- ④ヴァイマルへの旅(1) 山田九三 (11月6日(3))
- ④急性伝染病の話(1) 吉井錦陵 (12月2日(5))
- ④上毛歌壇「短歌」 新井とみ子、柳亘、島崎迷草、登丸一雄
- 5日(水)
- ③上信都々逸 上信和尚
- ④プロレタリア文学論(1) 芥川龍之介 (1)まで確認
- ④孤児「詩」 井田夢酔
- ④上毛歌壇「短歌」 武田エス子、都丸節子、松波ちどり、大淵好子、北沢貞子、浅見古都
- ⑤五万石騒動 上毛義民山田勝弥伝(1) 水村 (翌年2月25日(73))
- 6日(木)
- ④異郷の空「詩」 高見舟水
- 7日(金)
- ④深秋の北海道へ(1) 長島健司 (11月15日(8))
- ④上毛歌壇「短歌」 根岸美津、悲喜多逸子、清水基美、野村光子、高杉香代子
- ④断片「詩」 阿部平寿
- 8日(土)
- ④曙会寸言(1) 大槻三好、大竹好太郎 (11月21日(5))
- 11日(火)
- ④上毛歌壇「短歌」 福島三郎、大淵甘郎
- 12日(水)
- ④常陸磯浜情緒「短歌」(1) 鈴木葦舟 (11月13日(2))
- ④上毛歌壇「短歌」 大沢菊、岡田正男
- 13日(木)
- ④私の映画論(1) 屋代雅夫 (11月18日(3))
- ④お百合さんの失敗「童話」(1) 松本淳三 (11月20日(5))
- ④欧米旅行記 第一信 印度洋より 最上政三
- ⑥孔雀の舞「小説」(1) 大橋青波 (翌年7月21日(188))
- 14日(金)
- ④大陸情緒 晶泉山の夕(1) 小林諦亮 (11月22日(8))
- ④上毛歌壇「短歌」 梅沢義雄、梅沢喜三郎
- ④楠部南崖氏歓迎 茅の輪句会詠草「俳句」 植村祐三、楠部南崖、植村婉外、原沢楽山、角田耕八、根岸草丘、伝田専人、金子刀水、横山青蛙、植村祐三
- 15日(土)
- ④曙画展について(1) 大竹好太郎 (11月19日(2))
- ④上毛歌壇「短歌」 田島武夫、田野由次、馬場朋一
- 16日(日)
- ④国民教育の改善と手工科(1) 岡山秀吉氏講演要領 (11月19日(3))
- ④金山小唄 葉住松堂
- ④白魚を洛陽にかざして歌ふ「詩」 飯野雅男
- ④上毛歌壇「短歌」 真下栄一郎、松波幸三郎、永井亀一、草野露子、岩崎美*男、牧村三造、綿奈津*雄
- 18日(火)
- ④上毛歌壇「短歌」 失名、田村宣一、山石三路、池田久保、宇貫洗崖
- 19日(水)

④上毛歌壇「短歌」 福島三郎、斉藤寛司、碓井武寿、土屋与詩雄、野村紫苑、唐沢八八、高橋紫重

20日(木)

④金塔社展覧会を見て(1) 中島晚輝

(〜11月22日③)

④上毛歌壇「短歌」 さゞげ畑その他 木暮香坪／瀬下定川、福島三郎、清水志げ子

④三人「詩」 曼珠沙華、なにしてゐるのさ 暮路京之助／別れ話 芳太郎／ひとりぼつち 艸南華緒

21日(金)

②行き詰り状態に有る農村の振興を如何に講ず可きか(1)

(〜11月22日②)

④ポプラの最期「童話」(1) 光吉良助

(〜11月23日③)

④こゝろ「詩」 佐藤八郎

④上毛歌壇「短歌」 高橋期徳、福島三郎、清水迷羊、中戸四郎、堀江宵月、加藤をりま

22日(土)

④秋抄哀詩「詩」 小林仲蔵

④湖畔の村(1) 松村文一郎 (〜11月26日④)

④上毛歌壇「短歌」 土屋栄雄、福島三郎、梅沢元録、杉本白草

23日(日)

④大陸情緒 金髪の悶へ(1) 小林諦亮

(〜12月2日⑦)

④カールゲオルグウインケルブレッツへ(1) 佐藤政吉 (〜11月28日⑤)

④なぞ「詩」 艸南華緒

④ゆめ「詩」 芳太郎

④上毛歌壇「短歌」 庭山政二、清水迷羊、高杉香代子、松波幸三郎

25日(火)

④上毛歌壇「短歌」 高井繁次、新治迷治、天笠町子、原正雄

26日(水)

④老婆と人形「童話」(1) 桃井校尋六 永泰さだ (〜11月27日②)

④日暮れ「童謡」 中村芳太郎

27日(木)

④上毛歌壇「短歌」 福島正江、真清品吉、根岸美津子、田島武夫、新井とみ子、清水基美、町田信義

④宝物拝観 長楽寺は静かで花嫁の幻影の様な「詩」 清水房之丞

④月よ「詩」 佐藤八郎

④日暮の林「詩」 島崎迷草

28日(金)

④どろぼ雀「童謡」 梅沢喜三郎

④母さん、水車小屋「詩」 大槻三好

④白帆の旅 タヒチ島訪問記(1) としを (〜11月30日③)

④上毛歌壇「短歌」 真下栄一郎、藤倉はじめ、新井迷治、星野涼咲、梅子、柳霏路、瀬下定三、堀江宵月、土屋与志雄、野村光子

29日(土)

④夕ぐれ「童謡」 宵村秋子

④上毛歌壇「短歌」 飯塚幾太郎、萩原貴美子、小林恒夫、田村宣二、吉田青波、岩崎美三男、樋口平山

④強かりせば「小説」(1) 戸井田吉夫 (〜12月9日⑨)

30日(日)

③市内小学校野球リーグ戦に直面して 厩城スター 桂計

大正13年(1924) 12月

2日(火)

④詩のアンデパンダン 野村達一

④設楽一鶴を悼む「短歌」 野口市郎

3日(水)

④五つの塔「童話」 桃井校尋四 根岸謹爾

④文壇ゴシップ 前田河氏と小川氏の将棋 △△

④破芭蕉句会「俳句」 石井耕草、上野自然人、高柳檀子、尾上山僧然子

4日(木)

③ロンドンより 最上政三

④いねむり王様「童話」 桃井校尋四 吉岡貞雄

④実業補習学校開設に際し公民科教授の振興を望む 横山計三郎

④片恋「詩」 横堀真太郎

④上毛歌壇「短歌」 たけ男、あき男、正田文治、柳霏路、関根四五郎

5日(金)

- ④金利引下論(1) 松村 (1)まで確認
- ④美しい光景「詩」 島崎迷草
- 6日(土)
- ④芸術の前衛に立ちて 井上康文
- ④悲しい夜「童謡」 石川たけを
- ④児童の眼に映じた難波大助 逆徒大助の死を可憐の彼等是如何に見たか? 在京特派記者
- 7日(日)
- ④哲理的文芸論(1) 内藤鳴雪(12月9日(2))
- ④僕は嬉しい「詩」 清水基美
- ④上毛歌壇「短歌」 萩原葉月、黒沢豊朔、横尾忠太郎
- 9日(火)
- ④田舎情緒 室咲晃二
- ④上毛歌壇「短歌」 柳霖路、新井迷路
- 10日(水)
- ④音楽に対する智識(1) 田辺尚雄 (12月14日(5))
- ④父の日記(1) 亀井かずを (12月11日(2))
- 11日(木)
- ④土地固有の意義(1) 帆足理一郎 (12月12日(2))
- ④上毛歌壇「短歌」 松波幸三郎、柳霖路、石川たけを、宮沢しよ路、清水琴子、岡部なみじ、田村善太郎、岩崎美之男
- 12日(金)
- ④若き教師(1) 柳田俊三 (12月13日(2))
- ④上毛歌壇「短歌」 田島武雄、北沢貞子、大沢蘭香、松本幸三、野田新、高橋林一
- 13日(土)
- ④農村の急務は小作権の制定 地主と小作人が安心して耕作し得る唯一の方法
- ④上毛歌壇「短歌」 柳、波瑠子、岸きのゑ、中村一郎、中村白朶、星野涼咲、真下栄一郎、山本冷水
- 14日(日)
- ④生活を芸術化せ 森谷延雄
- ④上毛歌壇「短歌」 藤倉はじめ、柳霖路、高橋秋水、富沢富出子、小林紅児、清水基美、真下栄一郎、岡田房吉
- ④運命を呪ふ盲者(1) 小野里照親 (12月16日(2))
- 16日(火)
- ④農村文化程度は道路で直ぐ知れる 交通不便な山間には文化は普及されない 岡村農学士(談)
- 17日(水)
- ④都会と地方人 島崎藤村
- ④大人の見た良書子供の見良書 東京高師の良書選択に就て 今沢慈海
- ④上毛歌壇「短歌」 武国衛、小林恒夫、中曾根白史、土屋与志緒、柳霖路、唐沢八八八、高橋義郎、天笠乾郎、白藤定子
- 18日(木)
- ④児童の虚言の動機は大体三様 親たちはよく児童心理を理解せねばならない 寺田秀夫(談)
- ④情の争闘が人生の全部である 駈落までも是認した詩人の人生観 野口米次郎
- ④「創土」就いて 中島雨郷
- 19日(金)
- ④工兵隊へ(1) 羽鳥健男 (12月21日(3))
- 21日(日)
- ④経済と自然と自然科学(1) 二木保幾 (12月23日(2))
- 23日(火)
- ④年末雑感(1) 東宮七男 (12月28日(6))
- 24日(水)
- ④村上先生の霊を送りて 生前縁故ある人々へ(1) 吉田緑泉 (12月27日(4))
- ④悼蛎魚「俳句」 内藤鳴雪、浦野芳雄、村上鬼城
- 28日(日)
- ④解決を要する農政諸問題 大木遠吉
- 大正14年(1925) 1月
- 1日(木)
- ②聖代頌詠「短歌」 山色連天 大島金松、北爪喜久、須田かく子、浅見卯重、小倉邦雄、新井敏松、町田馨峰、奥野幽山、高橋永吉、井上保三、山田史郎
- ③御正月の楽み 少年時代を顧みて 雪深い利根の思出(1) 生方敏郎 (1月3日(2))
- ⑥「短歌」 桃井校尋四 深見米子、同 桜井まさ、同 島田しづ子、同 須永シゲ子、駒寄村大久保 金谷ふく、下室田校尋六 清水貫次、荒砥村富田 星野良策「童謡」 桐生北

- 校尋一岡部哲、下室田校尋六 清水貫次、江んぴつ 原町校尋三 清水重美、犬 升形校尋六 須藤久仁次、牛祭り 桃井校尋四 竹内二三恵、同 小高静枝、同 林富美子、同 南雲まさえ、同 木戸よし、同 篠原冬子、同 新井かつ、同 萩原より子、同 高二亀井茂／「俳句」 桃井校尋四 津久井八重、同 川崎貞子、同 宮下なつ子、奥野きよ子、高平信子、大前正子、高草木和江、同 尋六 伏木芳太郎、原町校高一 清水基美／「綴方」 我輩は牛である 女師附属尋五 大日向一 莊郎、私は牛である 同 浅尾喜久江、我輩は牛である 群師附属六 関口正三郎、私は牛である 女師附属尋五 和歌浦ます子、ウンドウクワイ 女師附属一 金井良枝、すずめ 群師附 西田文三、ばんのほし 女師附属二 須永咲代、ジシンとウシ 渋川小尋二 中尾正／「童謡」 正月 桃井川校高一 菅田隆次郎、北風 桃井校 佐藤清、ダルマ 東校 富沢秀雄、おばあさん 升形校尋六 宇敷一郎、夕焼小焼 女師附属四 斉藤寿美子、木 尋四 田中富美江、でんしん 桃井校尋四 浅見進一、雨の叔父さん 原町校尋五 清水高代、お寺の鐘 同 清水秋雄
- ＜子供のページ＞
- ⑦牛太郎とうし子「童話」(1) 日出野百合 (～1月11日(5))
- ⑦子供さんには成るべく不平の心を起させぬ様にそして何時も楽しく遊ばせる様にし

- たい 高橋しげり(談)
- ⑦女学生に忍耐力の涵養を御希望いたします 津久井房野夫人(談)
- ⑦現代の娘さんに昔気質な教養は考物です 斉藤義太郎氏夫人(談)
- ⑧森材と文化 野村林務課長(談)
- ⑨牛の物語 芳賀博士(談)
- ⑬山色連天「小説」井上杏路子
- ⑫丑歳生れ 若君藤栗毛「講談」(1) 松林小円玉(演) (～1月7日(4))
- 5日(月)
- ③牛天神(牛の伝説)(1) 水村 (～1月14日(7))
- 7日(水)
- ③七福神の夢「落語」(1) 入船亭扇橋(演) (～1月9日(3))
- ④セザンヌは近代美術の神である 登丸栄一
- ④古家「短歌」須藤泰一郎
- ④古里「短歌」大沢雅休
- ④冬日抄「詩」大槻三好
- ④籠居雑筆 島木赤彦の事 吉田緑泉
- ④序曲 理想の潰滅「詩」梅津錦一
- ④兄さんお手紙よ「詩」三洋木香志朗
- ④注目される人々
- 8日(木)
- ③年頭十首 牛の十戒 北甘閑人
- ④新文化建設に於ける女性の任勢(1) 井上秀子 (～1月10日(3))
- ④雑詠「短歌」住谷三郎

- ④元旦に「短歌」 輪井英
- ④新春詠唱「短歌」(1) 茂木善一郎、山田史郎、長岡草露、香津子、萩原、福田喜久治、武井武雄、石川たけを、高柳哲、倉林伍郎、宮沢はる子、斉藤市次郎
- 9日(金)
- ④短歌雑話(1) 窪田空穂 (～1月13日(3))
- ④新春詠唱「短歌」(2) 佐道陽作、大沢菊、鈴木繁作、小野里熊雅、吉田義元
- 11日(日)
- ③昇る初日「小説」(1) 大橋青波 (～1月29日(9))まで確認
- ④牛歩堂春日抄 大塚東二老
- ④石丸氏の文芸講演会 開催に当りて一言 中村芳太郎
- ④新春詠唱「短歌」(3) 堀口宵月、狩野赤山、掛川庫吉、関口しげ、萩原霧子、高橋津加二、神宮芳野、松井彦一
- 12日(月)
- ③小さき天才手賀君 本社のコドモ新聞の投書家だった晋さん
- 13日(火)
- ④米の増産計画と農村の協同努力(1) 安藤広太郎 (～1月14日(2))
- ④ゆうちゃんの牛(1) 桃井校六 泰永サダ (～1月16日(4))
- ④歌留多、手鞠「俳句」 尾上山僧然子 (～1月16日(4))
- 14日(水)
- ④歌留多、手鞠「俳句」 尾上山僧然子

- ④別れの小路「戯曲」(1) まこと
(～1月18日(3))
- 15日(木)
③「童謡」 笑ふつば 桃井尋四 山田昇、雪の小娘 同 奥野きよ子、ホコリ 同 坂本健次郎、りんご 同 尋五 吉田弥子、田中達雄、ほそ道 同 横内温子、ひぐれ、雀の宿 松沢幸三郎／「綴方」 ゆうべのゆめ 師附 永井六郎、牛の世界見物 同 尋六 小沼賢司、鼠と牛 女師附 尋五 小倉悦男
＜子供のパージ＞
- ④目出度い魚の話(1) 田中茂穂
(～1月16日(2))
- 16日(金)
④石丸梧平氏を迎ふ(1) 大沢雅休
(～1月18日(3))
- 17日(土)
④東邦某国の君主に絡る恋愛を種子に百五十万円の恐喝事件 最上政三
- ④はなびら 三宅やす子
- 18日(日)
④新春詠唱「短歌」(4) 羽鳥武重、星野涼咲、土屋栄雄、大友賢六、梅沢義雄
- 19日(月)
②単なる自然的存在から一歩進んだ人生の内に生きる価値を創造するのが文化の意義
石丸梧平氏講演
- 20日(火)
④恋の珠玉(1) 田山花袋
(～1月27日(7))
- 21日(水)
④忠孝両全 鈴木主水「講談」(1) 神田伯海
(演) (～7月13日(100))
- 25日(日)
④三十万の無教育者根絶運動(1) 沢柳政太郎
(～1月29日(4))
- ④身辺雑詠「短歌」 川原償太郎
- 27日(火)
④我創作界の現状(1) 小島徳弥
(～1月29日(3))
- 28日(水)
④夕暮れの会話(1) 北原白秋(～1月29日(2))
- 29日(木)
③新上信有明節
- 30日(金)
④霧のロンドン 最上政三
- ④生命の詩 観生
- 31日(土)
④人生(1) 長田幹彦
(～2月7日(7))
- ④群師附属小学校参観印象記(1) 梅沢
(～2月1日(2))
- 大正14年(1925) 2月
- 1日(日)
④囚想「小説」 近藤三郎
- ④設楽一鶴様の霊に「短歌」 野口静枝
- 4日(水)
④梅沢先生を送る 原町校高二 迷羊
- ④雪の朝 下室田校 尋五 小池はま子
- ④「童謡」 工場のえんとつ、僕の箱には 大
- 宮小尋二 高橋喜雄／ゆうびん箱、ふくろうは 同 東角井良臣／火の番 同 田島三郎
- 5日(木)
④人生創造二月号読後感 横地
- ④上毛歌壇 芝根短歌会「短歌」 梅沢周一、小鮎千代、大沢雅休、柳沢蛙城、川端刺青、高橋由里、萩原千代、高橋きよ、野口静枝、宮下安太郎、野口市郎、宮下菊二郎
- 6日(金)
④上毛歌壇「短歌」 富沢しよ路、梅沢周一、武国衛
- 7日(土)
④どこまで媚びるそしてどこまで吊るか 映画を思想的に見て(1) 田島太郎
(～2月10日(2))
- ④破芭蕉句会「俳句」 自然人、山僧然子、虹村、耕草、亀鶴、せいし、正子
- 8日(日)
③世良田部落民襲撃事件
- ④口語歌の問題 窪田空穂
- ④小原行 木名瀬虎雄
- ④恋の味 室咲晃二
- ④そこ力をみせて「詩」 梅津泰助
- ④嬰兒、私「詩」 川崎義雄
- ④冬素描「詩」 小林仲蔵
- ④思慕「詩」 星野晴男
- ④秋「詩」 前原美春
- ④貧しい子「詩」 佐藤八郎
- ④ある夜「詩」 武井武雄

④ 淡い哀愁「詩」 雨郷

④ 眉「詩」 久葉与詩男

④ 追憶の歌「詩」 横堀真太郎

④ 上毛歌壇「短歌」 岡部宇一郎、新井迷治、

無名、輪井英、川原倫太郎

10日(火)

④ 我国に於ける労働運動の過去及び現在に就いて(1) 中村元治 (〜2月19日(6))

④ 上毛歌壇「短歌」 松本夜詩、田島武夫、堀

江宵月、松波幸三郎、真下栄一郎、伊能彦造、高橋秋子、中山輝月、輪井英、新井迷治

治

11日(水)

④ 夫婦愛の破綻時代に就いて 婦人の三十歳前後に来る(1) 吉堅与三吉 (〜3月27日(3))

④ 美術と伝統(1) 横堀角次郎 (1)まで確認

④ 力強さの生動向(1) 観念 (1)まで確認

④ 上毛歌壇「短歌」 大野滴露、根岸美津子、福島三郎

13日(金)

③ 北甘閑人氏の印象 原恵作

④ 上毛歌壇「短歌」 掛川英太郎、城野花かね子

14日(土)

④ 英国のクリスマス(1) 最上政三

(〜2月18日(3))

④ 上毛歌壇「短歌」 岸虎尾、近岡ゑい路、小野文之助、小野又之助、阿部平寿

15日(日)

④ 民謡の勃興と其の史的考察(1) 茂木近之助 (1)まで確認

④ 生業の歌「短歌」 鈴木八重花

④ 移居、嫁ぎし妹へ「短歌」 梅沢周一

④ 春「詩」 霜木冬彦

④ 黄昏の丘「詩」 田中登輝

④ NAYAMI「詩」 茂木のぼる

④ 芽生江「詩」 井田泉華

④ 噂「詩」 津智谷芳夫

④ 現代語短歌運動雑感 大槻三好

④ 硝子の卵 百瀬閑

④ 個性と恋愛 橋爪榛泉

④ 上毛歌壇 個性会詠草「短歌」(1) 鈴木草舟、吉田緑泉、新井省三、亀井かつを、斉藤良太郎、加藤玉兔、渡辺藤波、渡辺城山

17日(火)

④ 上毛歌壇 個性会詠草「短歌」(2) 金子敏一、真下流星、瀬下定泉、須藤桂舟、北爪吉郎、森定治、斉藤喜蔵、鈴木草舟

18日(水)

④ すべりだい「詩」 伊勢崎小尋 四中沢年子

④ 上毛歌壇「短歌」 大野滴露、新井迷路

19日(木)

③ 問題の世良田村部落襲撃事件を顧みて

④ 上毛歌壇「短歌」 敬印、柳、土屋栄雄、登丸ひさ子、梅沢義雄、松波幸三郎、

20日(金)

④ 霊術実験の観破 霊でもなく法でもない(1)

早川弥宗吉 (〜2月26日(5))

④ 朱葉会展に篠原隆子氏の入選せるを喜ぶ 川幡正光

④ 上毛歌壇「短歌」 大野滴露、梅沢義雄、船津重雄、岡田文夫、岡田宇一郎、鈴木歌舟

21日(土)

④ 主婦と経済観念 喜悦孝子

22日(日)

④ 折口信夫先生のこと 国学院大学にて 久保田安治

④ 蝗(老人に捧ぐ)「詩」 倉田修

④ 悲哀「詩」 小林せいじ

④ 町の人達よ「詩」 島崎迷草

④ 無題「詩」 大沢定助

④ 暗示から「詩」 溪泉

④ 再び暗い部屋へ「小説」 松崎南華緒

④ マンドリン奏法の要訣(1) 萩原朔太郎 (〜3月1日(7))

④ 闖入者 文屋六老

④ 早春雑歌「短歌」 藤倉肇

④ 我が事の歌「短歌」 達也

25日(水)

④ 上毛歌壇「短歌」 高橋義郎、佐藤美樹、萩原めづめ

26日(木)

④ 破芭蕉会「俳句」 山僧、せいし、風雲子、自然人、碧汀、亀鶴、静好、赤光子、虹村

27日(金)

④ 滞欧雑記(1) 最上政三 (〜2月28日(2))

④ 上毛歌壇「短歌」 山野天台、大野滴露

④ 上毛歌壇「短歌」 山野天台、大野滴露

④ 上毛歌壇「短歌」 山野天台、大野滴露

④ 上毛歌壇「短歌」 山野天台、大野滴露

④ 上毛歌壇「短歌」 山野天台、大野滴露

④ 上毛歌壇「短歌」 山野天台、大野滴露

④ 上毛歌壇「短歌」 山野天台、大野滴露

28日(土)

④上毛歌壇「短歌」 亀井かずを、大場忠男、

幹津岐子

大正14年(1925) 3月

1日(日)

④製作に対する愚感 青木清水

④如月のもの「短歌」 輪井英

④草の芽もゆ 川原倫太郎

④自我の王様「詩」 川崎義雄

④二月まひるの、親にないしよで「詩」 暮路

京之助

④八人斬りの歌「詩」 梅津泰助

④葬式と風景「詩」 高橋歌津男

④四人歌会「短歌」 倉田春造、早川弥太郎、

川端刺青、柳沢蛙城

④冬の山家「短歌」 鈴木葦舟

3日(火)

④春宵雜記 上司小剣

④上毛歌壇「短歌」 青木田命路、須永斉、宮

沢しよ路、佐藤岩雄、本間守夫、大竹正美

4日(水)

④春の野のおどろき「戯曲」(1) おほむらか

をる (3月7日(4))

⑤家庭生活を切盛りする婦人の努力に依らねば勤儉貯蓄の実効は挙げられぬと喜悦孝子女史は説く

5日(木)

③香山より(信) 横山

④余りに賢過ぎては却て大仕事は困難 理解

と同情を持つやうにと賀川豊彦氏の講演行

脚(1) (3月6日(2))

④上毛歌壇「短歌」 佐藤岩雄、岡田宵星、後

藤賢三、須藤金二郎、大野滴露、武田エス

子、堀江亮一

7日(土)

④年少期と活動写真 智識的の障害も甚しいが肉体上にも異常な変化を来す(1) 田島太郎 (3月11日(2))

8日(日)

④山陰道と日向路 角田清次郎

④雑詠「短歌」 鈴木葦舟

④下駄 松村文一郎

④読書漫筆 「橄欖」のぞ記 大沢雅休

④犬「詩」 川崎義雄

④私「詩」 前原美春

④鏡「詩」 田島嘉之

④今朝素描「詩」 相場光郎

④紅椿「詩」 大槻三好

④利根の夕べ「短歌」 柳沢蛙城

10日(火)

④上毛歌壇「短歌」 土屋栄雄、船津重雄、新井迷路、松波幸三郎、島崎迷草、岡部宇一

郎

11日(水)

④衣装の色彩美(1) 奥山実 (3月12日(2))

④英国の婦人(1) 最上政三 (3月12日(2))

14日(土)

④童謡の評価態度(1) 大蔵蘇月

(3月24日(6))

④上毛歌壇「短歌」 よし文、石井東平、船津

重雄、知口紫霞、松波泰治、茂木善一郎

15日(日)

④偶感 川原倫太郎

④木下利玄氏を憶ふ 河瀬十剣

④PETAN. PETAN. 発刊「詩」 梅津錦一

④光「詩」 松本良三

④塑像をいだく「詩」 佐藤八郎

④力のない詩「詩」 中村芳太郎

④あの春 伊藤信吉

④春宵集「短歌」 達也、岡庭雀一郎、小野里

照親、村里清、橋爪榛泉、和井英、奥田茂

湖

④岐路「小説」 近藤三郎

19日(木)

④柿 敷島小五 中島鉄雄

④上毛歌壇「短歌」 中村一郎、土屋栄雄、富

沢富出子、松井麗仙

20日(金)

④展覧会について(1) 田中翠璋

④雪だるま「詩」 大槻三好 (3月22日(2))

22日(日)

④師弟論(1) 浦野芳雄 (4月26日(3))

④亡き妹の歌「短歌」 中村芳太郎

④独歩 井川純

④私の涙「詩」 鳥島健三郎

④春来る朝「詩」 橋爪榛泉

④故郷の遁走者「詩」 赤鳥

④林檎、失題「詩」 秋岡澄夫

④短篇小説的な男 有川の話(1) 川崎義雄
(3月29日(2))

⑤胸の花園 眼に映じた風物心にうかんだ思
ひを歌にし句にあらはす 小詩人サダ子嬢

24日(火)

④欧州大陸旅行記(1) 最上政三
へ4月10日まで確認、回数不明

④「童謡」一ツ松 東校尋五 宮沢ひでを、
レス(小犬) 同 佐々木瑳五郎、ゆずのと

げ 同 早川セイ、ずぐわ 大宮校尋二 高

橋喜雄、お池のお舟 同 嶽山澄、犬ころ

沢田小高一 佐藤武

25日(水)

④女として 山脇房子

④小さき芽生「詩」 小鳥よ、秋のおとづれ

尋五 平井とし子、すゞめのす、月夜の晩

尋四 久保田まさ子、金魚、きつね 尋四 久

保田さわ子、王女の使、あわれな草花 尋

五 井上文字、月見草、星 尋六 本間君代、

はづみ王、赤とんぼ 尋四 鶴生川うめ子、

はすの花、とんぼ 尋六 野沢しげる、かわ

い、お舟、ぶらんこ遊び 尋三 鶴生川きく

子

26日(木)

④坂本精一氏の死 二つの死(1) 東宮七男
(4月10日(10))

28日(土)

④一家の平和を支配する主婦が料理の腕 幸

福の鍵は小さな所に 下田次郎

④児童教育と音楽 関鑑子

④上毛歌壇 哀惜の歌「短歌」 小野里照親、

小林豊、金谷寿子、田島武夫、秋原露子

29日(日)

④南蛮船の事 萩原友明

④人生途上 塩野筈三

④吾妻俳句大会秀句集「俳句」 土筆 虚空、

三余子、十剣、子朗、笑山、一草、梅窓／

苗代田 雨読、耕夫、竹風、松影、子朗、

光雲、寿仙、虚空、夢学、十剣／余寒 子

朗、光雲、虚空、十剣、夢学／蒲公英 十

剣、光有、三余子、竹、吾妻、涼葉

④春の姿「詩」 神倉長次郎

31日(火)

④流行界から見た新しい人生観 震災後は依

然享楽主義の傾向を示してゐる

大正14年(1925) 4月

1日(水)

④萌芽集「綴方」 中村／勇敢なる少年 群

馬学院 保坂／「童謡」 びつこさんとびつ

こさん 同日野、日曜日 同 大淵、竹と

雀 同 若林、牛さん 同 竹村

2日(木)

④幼稚園時代の子供に戯曲本能や創造に訴へ

る玩具 神話童謡などに因んだ物を与える

が好い

3日(金)

④幕合の感想 水谷八重子

5日(日)

④よき妻とよき母を作る教育の条件 現代の

教育者は常に社会に教へられてる 大江す

み子(談)

⑤表現の美から出発した遊戯を普及し西洋に

も無い日本の国民性にびつたりと合つた者

を建設したい 幼稚園保育会で土川講師語

る

7日(火)

④子供の懷疑と煩悶 小学校卒業前後に起る

子供の烈しい批評眼 吉田無染

8日(水)

④女性は如何にして配偶者を選ぶか 恋愛は

一種の熱病 菊池寛(談)

④青空「詩」 伊勢崎校尋五 平井とし子

④みみづ「詩」 伊勢崎校尋四 久保田まさ子

④私の童話(1) 神倉長次郎

9日(木)

③追悼記(1) 錦木忠正 (4月30日(16))

④飲食物から見た支那国民性の研究(1) 凌雲

閣主人 (4月11日(3))

④上毛歌壇「短歌」 佐藤岩雄、宮沢しよ路

10日(金)

④上毛歌壇「短歌」 福島三郎、矢口紫霞

11日(土)

④前橋花行脚(1) 中島吉太郎、佐藤錠太郎

(1)まで確認

12日(日)

- ③町議と糞 倉田春造
 ④赤十字病院にて「短歌」 鈴木喜八
 ④「ふゆくさ」読後感 上毛の生んだ歌人土屋
 文明氏の近業(1) 吉田緑泉(〜4月19日)(2)
 ④落合君の個展について 佐股富雄
 ④憤、上諏訪にて「短歌」 大河原周夫
 14日(火)
 ④雞舎の前(1) 大野露滴 (〜4月16日)(2)
 ④近頃の出版界は全集もの流行
 ④春霞と春雨 上原*学博士(談)
 15日(水)
 ④眼醒めつつある現代婦人への要求 男子専
 制の家庭を改造して何故その女王となら
 ぬか 帆足理一郎
 ④別れ送、宮本、中野両先生「童謡」 上白
 井尋五 荒井アサ、同 生方イフ、同 荒木す
 い、同 真藤光太郎、同 石坂テイ
 16日(木)
 ④春宵雜記 上司小剣
 18日(土)
 ④春の愁ひ「詩」 吉屋信子
 19日(日)
 ④冬から春へ「短歌」 和井英
 ④魂の戦慄 木名瀬虎雄
 ④空しく老ひぬ(1) 柳田俊三 (1)まで確認
 ④郊外「詩」 長谷川寛
 ④梅「詩」 前原美春
 ④魂の傷「詩」 橋爪榛泉
 ④酒「小説」 文屋六老
- 21日(火)
 ④生活の享楽とレコード音楽(1) 東宮一雄
 ④工場の人々にプレゼントのお話二三(1) 木
 下龍雄 (〜4月22日)(2)
 23日(木)
 ④日米経済の友誼的關係(1) エムミラー根
 岸時雍記 (〜4月24日)(2)
 ④ロシア小唄の話(1) 覆面子(〜4月28日)(4)
 25日(土)
 ④上毛歌壇「短歌」 原さだ、中山輝司、茂木
 善一郎、土屋栄雄、松井麗*
 26日(日)
 ③九州大観(1) 香雨老人
 (〜6月20日まで確認、回数不明)
 ④農村文芸を興せ 関根四五郎
 ④田中氏に贈る 病江て三年の春「詩」 萩原
 友明
 ④寂しさ 福田保夫
 ④親のない子に「詩」 金子
 ④悪魔の魂、人間性「詩」 高見舟水
 ④思想の変化性 藤岡味知夫
 27日(月)
 ②国難に直面して(1) 高島平三郎(談)
 (〜5月4日)(7)
 29日(水)
 ④お母様の知るべき育児の智識(1) 町田靖雄
 (談) (〜5月19日)(11)
 ④上毛歌壇「短歌」 深沢恒雄、大沢菊、田野
- 由次、岩崎美三男、佐野岩雄
 ④サン、シモンを想ふ(その没後百年に際し
 て)(1) 佐藤政吉 (〜4月30日)(2)
 30日(木)
 ④人目忍んで「詩」 芳太郎
 ④うれひ「詩」 南華緒
 大正14年(1925) 5月
 2日(土)
 ④教育改造の最近の傾向と指導論(1) 岡田怡
 川 (〜5月8日)(3)
 ④おしろい「詩」 芳太郎
 ④趣味の油絵 高橋義男
 3日(日)
 ④フアー、アップル(グリム童話)「童話」
 小板橋一雄訳
 ④ふさちゃんの病氣「童話」 中島雨郷
 ④三味線草「歌謡」 青春、はかなさ 中村芳
 太郎/うす情、ゆく春 松崎南華緒
 ④高橋茂吉君を送る「短歌」 神保冷平
 ④其折の歌 吉植庄亮氏を赤坂の邸に訪ひて
 「短歌」 鈴木喜八
 ④揚雲雀「短歌」 岡庭雀一郎
 4日(月)
 ③衆議院に於ける暴行沙汰 初等教育上に多
 大の影響を及ぼす 鈴木敷島校長(談)
 9日(土)
 ④湯の町「詩」 市丸武
 ④雨後の竹の子と現代の俳壇 上原葉緑
 12日(火)

④手「詩」 榛泉

13日(水)

④信ぜぬに居れぬ偉大な宇宙の力 帆足理一郎(談)

④正夫と月君「童話」 神倉長次郎

14日(木)

④刮目に値する世界の最新形勢 長瀬鳳輔(談)
④地方文化と民謡(1) 茂木近之助

(5月21日(6)〈中絶〉)

④涙壺 刊行について

④想ひ出「詩」 松崎南華緒

④ふたり「詩」 中村芳太郎

17日(日)

④生活の芸術化 宮島新三郎

④「芸術と自由」読後感 大槻三好

④詩二篇 孟宗竹林、神経素描「詩」 川崎義雄

雄

④二十三男の乳房「詩」 赤小路麗平

④不可不変時の輪廻「詩」 梅津泰助

④他人「詩」 水伸

④河原で唄ふ小詩二篇 A 堤の上を行く、B 焦げた風景「詩」 横堀真太郎

④春愁「詩」 高橋加津二

19日(火)

④「詩」 伊勢崎すみれ

20日(水)

④情炎「詩」 中村芳太郎

④ひとり「詩」 まつなかほ

④子供には図よりも絵を見せよ 武井武雄

(談)

22日(金)

④お角力さん今昔物語(1) (5月23日(2))

24日(日)

④最も忌むべき有害な少女詩

26日(火)

④教育方針を根本的に改善 補習教育充実を
手初に教育の機会均等を図る

27日(水)

④各都市に児童遊園を設けよ 倉橋惣三(談)

④孤独に生きる人に真の愛は生れる 暁島敏

④美人は初夏に多い(1) 吉井錦陵

(5月28日(2))

29日(金)

④はつ恋「詩」 美代子

④ゆふぐれ「詩」 柳の葉

30日(土)

④聖徳太子の農村政策(1) 阪本利郷

(6月4日(3))

④農村の女子は如何に教育するか

④統計に表れた男女結婚年齢 内務省調査

31日(日)

④あの頃の私のこと(女人陥穽)(1) 川原倫太郎

(6月7日(2))

④短編集 蛇 岡田東洲

④芽、蕾、花「短歌」 久保田安治

④郷土の人々へクラルテ発刊のこと 住谷悦治

④雀と花畑集「詩」 とんぼ(短詩六章) 福

田夕咲／祝宴 丘ゆかり／初夏の心 八木
重吉／暴風 石川芳之助／新居五題 新
居、淋しき、雨、音楽、活花 浅川英一

大正14年(1925) 6月

3日(水)

④雑草「詩」 麦笛 暮路京之助／温泉情調

市丸武／月見草 中村芳太郎

④皆さんの好きな童話や活動にはこんな嘘が
あります

4日(木)

④各都市に児童相談所を作れ 岡崎栄松(談)

④よき音楽は常に魂を揺動かす 柳兼子(談)

④瓦斯のお話(1) 木下龍雄 (6月10日(4))

5日(金)

④文明の真精神は物神一如に尽きる 牧野虎

太(談)

6日(土)

④真の文化主義 帆足理一郎(談)

④映画は芸術なりや 仲木貞一

7日(日)

④「傷める花」を読む 角田恒

④涙壺を読んだと

④感激派の詩人 小川未明の側面観 神田重

陽、坪田譲治、新井紀一

8日(月)

②南欧の旅から(1) 最上政三(6月11日(2))

9日(火)

④スポーツの精神 永井潜(談)

④良い子を望むなら悪の先手を打て 瀬川八

十雄(談)

10日(水)

④日本人の理想は自我の実現にある 田中義能(談)

④精神生活が若さと女性美に反映す 林きむ子(談)

11日(木)

④衛生知識に欠けた農村乳児は虚弱

④歌舞伎劇の研究 幕末の世相を表す河竹黙阿弥翁の作品 本間久雄(談)

12日(金)

④和製品を使へば物価は安くなる 原田幾一(談)

④苦心する程懐しく登山の興味は募る 榎有恒(談)

13日(土)

④我国民の急務は経済思想の修養 添田寿一(談)

④低度の農学校が農村の利益になる

14日(日)

④不動心 板垣宗太郎

④新緑の窓から 夕暮正美

④浅春雑唱、春雨二首「短歌」 吉植庄亮

④みなづき集「短歌」 草花見本 藤倉肇／子守の歌 川端刺青／ひそけき 小野里照

親／雑詠 葦思川竹緒／河原の石と草と

雪山弘／山の夕焼 関根四五郎／雨 石川

清朗／折にふれ 天田与一

④詩二篇 空腹、思索「詩」 川端義雄

④太平洋に跳る歌「詩」 佐藤八郎

④青芽の匂ひ「詩」 赤小路麗平

④嘲笑の世界「詩」 大竹好太郎

④生命が長すぎる「詩」 水伸

④朝「詩」 神倉長次郎

④まぼろし「詩」 大河原周夫

16日(火)

④精神集中と睡眠 脳経済と其休養 下田光造(談)

⑤草一本虫一匹の生命を凝視せば生殖の神聖を思ふ 分娩は女の恥辱とすな 山田わか

(談)

17日(水)

④医家の立場から女性問題を観る 母性の尊厳に醒めよ 金杉英五郎(談)

18日(木)

④農民の芸術心を農学校で涵養 文部省の農村振興策

④夏の草 絹糸草、夏菊「詩」(1) 中村芳太郎

19日(金)

④仏教の分配論 友松円諦(談)

④夏の小供は誘惑され易い 植田糸三郎(談)

④夏の草 蛇の目菊、鳶かづら「詩」(2) 中村芳太郎

20日(土)

④個人主義を排し社会意識に醒めよ 留岡幸助(談)

④夏の草 月見草、金魚草「詩」(3) 中村芳太郎

郎

21日(日)

④ゆうつな散歩(六月の恋は寂しい) 正二郎

④窓の外から二三件を(夕暮正美氏へ) 野火

④雑木の花「短歌」 田野由次

④燈台船(序章) 岡田東洲

④悶へて 森尾哀星

④近代人に与ふるの詩「詩」 大河原周夫

④抒情二篇 I君へ、夜の街の色「詩」 茂木のぼる

④断片詩「詩」 松山しげる

④幻影のリズム「詩」 田岡笹市

④夜行軍「詩」 流杏

23日(火)

②赤城礼讃 雨中登山記(1) 松崎

④萩尊の説いた国運振興の対策 木村泰賢(6月29日(5))

(談)

24日(水)

③須藤翁を訪ふ 北甘閑人

③伊太利から 最上政三

④地方の若い女性へ 楽園は郷土にある 竹内貞三(談)

④現代婦人問題の歴史と批判 三大素因を解剖す 広井辰太郎(談)

25日(木)

③スイツルから 最上政三

④農民と政治(1) 岡田東洲(6月26日(2))

④農民と政治(1) 岡田東洲(6月26日(2))

④ ペスのてがら「童話」 〈子供の国〉

26日(金)

④ 教育の力で自殺者を救へ 倉橋惣三(談)

27日(土)

④ よくも洞破した欧米人の日本観 番岡幸助

(談)

28日(日)

④ 現代語歌壇小見 六月の雑誌を読んで 大槻三好

④ マンドリン練習者へ(1) 萩原

(7月12日(8))

④ 蛭「詩」 丸山正三

④ 六月集「短歌」 松本良三、茂木善一郎、船津重雄、大野滴露、田岡涼風、ひさし、神山東二、星野晴男、中曾根白史、岡安ウメ子、古谷野茂登子、横山計三郎

④ 六月の歌「詩」 浅川英一

④ 教生詩編の一「詩」 小林仲艸

④ 気絶した舌「詩」 赤小路麓平

④ 魂のメスで「詩」 橋爪榛泉

④ 幸福な手「詩」 横堀真太郎

④ 野の花「詩」 阿部久子

30日(火)

② 日本経済界の現状及将来(1) 井上準之助

(述) (7月14日(12))

大正14年(1925) 7月

1日(水)

④ 竹雨居抄「俳句」 上原緑葉

2日(木)

④ 自由にさせ度い少年少女の読書 男児は科学的に醒め女兒は芸術的に研究 赤松まさよ(談)

3日(金)

④ 女子の教育は家庭と切離すな(1) 棚橋絢子

(談) (7月4日(2))

④ 漫筆(1) 中原達也

4日(土)

④ 宗教界の三派は互に相理解せよ 渡辺海旭

(談) (7月10日(4))

⑤ 上毛美人伝 異説お虎が淵(1) 水村

5日(日)

④ 人生創造一週年記念事業の二三に就て 石丸梧平

④ 奈良より 前橋教員同志会一行

④ 再び新緑の窓から 夕暮正美

④ 可愛い情欲、明るい神経「詩」 菊沢茂

④ 万物は詩ふ「詩」 大河原周夫

④ 詩二篇 子供、乃公「詩」 梅津泰助

④ 夏日の夢「詩」 佐藤八郎

④ 花畑と少女、月見草「詩」 中村芳太郎

④ よくしゃべる男「詩」 田中涼葉

④ 愛は嗅く、握られた恋「詩」 橋爪榛泉

④ 白いピラミッド「詩」 雪山弘

④ 梅雨「詩」 不似兄

9日(木)

④ 農村電化は我国には適せず

④ 野良の恋(1) 倉田春造

(7月12日(4))

④ 自己の力で婦人も自らパンを得よ 林琴子(談)

12日(日)

④ 柳を愁ふ、思い出の故郷「詩」 菊沢茂

14日(火)

④ 怪傑自来也「講談」(1) 中村兵衛

(翌年2月14日(20))

15日(水)

④ 小さき芽生 ヴァガボン社より「詩」 南の国へ 伊勢崎校 平井とし子、きのふきいたなぞ 久保田まさ子、胡蝶のなげき 同井上ふみ子、金魚 同 久保田さわ子、にはのお花、私の妹 同 杉山ふみ江、すずめのお家 同 鶴生川うめ子、かわいゝお舟 同 鶴生川きく子、朝 同 杉山貞治

④ 児童音楽会感想二三 林幸光

16日(木)

③ 大統領選挙を観る 独逸共和国の政情 最上政三

④ 世界的に珍しい木喰上人の芸術 荒寺に彫り残した仏像と其の無欲恬淡な生涯 柳宗悦(談)

④ 工場や実習室で公民教育を施す

17日(金)

④ 労働組合の公認と社会政策の断行 失業問題の二大対策 上田貞次郎(談)

18日(土)

④ ライン河畔と外交関係 連合軍隊駐屯 最上政三

- ④故郷遠く恵れぬ生活苦の女性達 竹中竹子
(談)
- 19日(日)
- ④趣味の版画に就て YOSHIO
- ④短歌礼讃 歌集穂明を読み、橄欖読後雑感
- ④檜葉の雨「短歌」久保田安治
- ④現代語短歌雑感 大槻三好
- ④孝雄に寄す「短歌」藤倉はじめ
- ④尾瀬沼行「短歌」横堀福次郎
- ④近詠「短歌」梅沢周一
- ④丸ビルの歌「詩」佐藤政吉
- ④行路病者「詩」倉田修
- ④恐ろしい夢「詩」酒井辰二
- 21日(火)
- ④西洋楽器の話(1) 東宮一雄(7月26日⑤)
- ④処女「詩」横堀真太郎
- 22日(水)
- ④児童教育と同時に健康の増進を計れ 岡崎栄松(談)
- ④楽しいダリアとかなしいダリア「詩」伊勢崎尋六 平井とし子
- ⑥愛は悲し「小説」(1) 白石実三
(7月28日③)
- 24日(金)
- ③オカベのオヂチャンより 唱歌ナツのエイセイ
- ④児童の活動性と自由を拘束するな 未出ます子
- 25日(土)
- ④現代文に就て雑感 鈴木葦舟
- ④料理「詩」落合義夫
- ④青草の匂ひ 神田重陽
- ④髻(ある七月の挿話) 横地正二郎
- ④田植の歌「短歌」天田与一
- ④「黒きリボン」を評す 松崎南華緒
- ⑤老面伯 魚形水雷を日本で初めて習った日清日露役の老勇士 絵筆持つ其半生
- 26日(日)
- ④白い仔山羊「童話」(1) 斎藤一郎
(7月30日④)
- 27日(月)
- ②白耳義の首府 怪しい外国婦人実は日本人の良妻 最上政三
- 29日(水)
- ③露国の宣伝も無効 右傾した独逸国民 最上政三
- ④影響の大きい玩具の教育 倉橋惣三(談)
- ④子供の読物に悪い小説や講談 素朴で雄大な内容ある物が最も良い 中沢留(談)
- 30日(木)
- ④今後の人類文化は相互扶助の完成 国際化人類化の時代 吾等の進路は明瞭だ
- ⑤時事雑吟「川柳」狂歌 閑人
- 大正14年(1925) 8月
- 1日(土)
- ④玉村魂祭歌会「短歌」伊藤雀子、掛川英太郎、川端刺馬、田島夕陽、野口市郎、倉田春造、宮下安太郎、宮下菊二郎、須田之公、菅沼カツ子、久保田爪丁、中沢、柳沢蛙城、小鮎千枝、梅津周一、大堀花穂、萩原千代
- ④星の楽しみ(1) 香城生
(8月14日まで確認、回数不明)
- 2日(日)
- ④私の童謡舞踊観 山田耕作
- ④すゞめ吟社例会「俳句」大島諒々、はくほ、大川帆三樓三
- ④ロマン・ローラン著ジャンクリストフを讀みて 塩野菊三
- ④紫陽花「短歌」谷崎光吉
- ④八月の花言葉 Y
- ④八月の思ひ出「詩」中村芳太郎、松崎なかほ
- ④道徳は苦しい「詩」菊沢茂
- ④河原幻想 樹下妄想、灰降る日「詩」雪山弘
- ④野原「詩」横堀真太郎
- ④感覚逍遙「詩」川崎義雄
- ④その日「詩」佐藤八郎
- ④夜の色「詩」星野玻瑠男
- ④祈禱言「詩」不似兄
- ④丘の鐘「詩」阿部ひさ子
- 4日(火)
- ④不景気の賦りで一生働き続けよ 棚橋絢子(談)
- ④旅のうた、母なき子「短歌」吉井忠男
- 5日(水)
- ④哀犬の幸福「童話」(1) 刀根川春人

(8月6日②)

- ④自由詩「詩」こみち 中室田校尋三宮下
綾子、一軒や 同尋四 平沢シヅエ、あきの
雨 同尋五 中島マサ、川の夕 同尋六 近
藤マサ

- ④飯岡だより(1) 男師附属臨海校引率者

(8月12日④)

6日(木)

- ④夏季衛生の話(1) 吉井錦陵 (8月18日⑨)

- ④死刑囚宣言 上毛の詩歌人並びに闘士 其ノ

- 一(1) 東宮七男 (8月9日③)

7日(金)

- ④軽井沢より 悠閑山人

8日(土)

- ③墨染衣にも愛の悩み 夏の高野へ(1) 岡田

(8月12日③)

- ④合同俳句大会「俳句」(1) 雷、蚊帳、百日

- 紅、青出 柳水、赤陽子、香山、鬼城、青

- 楓、雨村楼、寛哉、如友、婉外、吐秋

9日(日)

- ④多くの子供と遊ばせ悪を自覚させよ 倉橋

惣三(談)

- ④合同俳句大会「俳句」(2) 香山/多胡碑

- 春楓、寛哉、赤陽子、大六、如友、天都子、

- 雨亭/貧居 雀堂、杜城、鬼城、吐秋、婉

- 外、東山、鳴月、や太郎、柳水

10日(月)

- ③排日の本場米国羅府で路傍演説に気を吐いた
本県出身の最上政三君

11日(火)

- ④懐しい島の伝説や民謡

- ④合同俳句大会「俳句」(3) 柳水、婉外、青

- 楓、雨亭、赤陽子、寛哉、如友、天都子、

- 鬼城、や太郎、萩郎、杜城、雀堂、香山、

- 仲春、吐秋、雨村楼、東山、鳴月

12日(水)

- ④映画俳優一人一評 伝明論一束 沢村輝映

- ④映画私論 原作に就いて K M

- ④表情に就いて 南静香

- ④児童のために自由と空想の世界に活動写真

- の是非 手島清風

13日(木)

- ④牧場の馬「童話」(1) 野村祝次

(8月20日⑤)

- ④凡人凡語 秋月喜久路

16日(日)

- ④高原の憂鬱 相場光郎

- ④失はれたもの 羽鳥健男

- ④黒きリボンの感じ 清水房之丞

- ④草花播種「詩」 浅川英一

- ④猫「詩」 田中愁二

- ④見江ぬ果物「詩」 菊沢茂

- ④哀之介詩篇 天才、決意、妻 或る魂の乱舞、

- 湖辺に想ふ、無題「詩」 笛木哀之介

- ④ダダダ「詩」 梅津泰助

- ④夏の夕「詩」 橋爪榛泉、

- ④屋根裏と青葉「詩」 小林仲草

- ④浅草橋上から「詩」 畑ひろし

- ④暁の夢(亡きK様の妹へ)「詩」 田中涼葉

- ④孤独「詩」 市丸武

18日(火)

- ④農業の趣味を女子に吹き込む

- ④金融趨勢と金利政策(1) 登丸栄一

(8月21日③)

- ④難解の漢語を平易な国語に改む

19日(水)

- ④音楽と母と子供 山田耕作(談)

- ④殿様とアイヌの子供「童話」 横田桃水

- ④妾の米国映画観 欧州物と比較して 石川

溪子

- ④アホ六つ 岡村茂

20日(木)

- ④東洋を象徴する秋の七草の話それに因め

- る数種の短歌 松崎直枝(談)

22日(土)

- ④子供には何故玩具を与へるか 関寛之(談)

- ④失業を救ふ為め子供に職業教育 安田亀一

(談)

23日(日)

- ④上毛写真画壇の近況 附作家に贈る苦言

番祐也

- ④乱想 萩原友明

- ④雅休氏に会ふその他 横地正二郎

- ④亡友を悼む「短歌」 川原倫太郎

- ④長瀬遊草「短歌」 植村祐三

- ④文壇と文学、流行非流行作家、不良と文学
青年、バクチ、合評会、婦人雑誌作家、編

集者への注文、よい本 相場泰三

④或病人の詩篇「詩」 吉野陽

④原之郷俳句会「俳句」 花泉、雀堂、美山、句念坊、玉兔、青楓、鳴月、花泉、八厘、白萩、見外、東畝、月光、北洲

24日(月)

⑥愛は悲し 作者より 白石実三

25日(火)

④国勢調査の価値 阪谷芳郎(談)

26日(水)

④休暇後に表れる幼児達の悪癖 小向喜美(談)

27日(木)

③社会政策上より観た税制整理(1) 清水留三郎

(〜8月29日(3))

④滑稽な童話から憐れみが無くなる 倉橋惣三(談)

28日(金)

③我航空界の現状に鑑み中島久平氏に切望す 欧米視察より帰りて 最上政三

④乱酒家の子供は発狂し易い 下田光造(談)

④最近のアメリカ映画(1) 田中愁二

(〜8月30日(3))

30日(日)

④無批判で何も彼も西洋風に感づけるな 鳩山春子(談)

④各文明期に見へる原始時代の玩具 関寛之(談)

大正14年(1925) 9月

2日(水)

③外遊より帰りて 普選実施期に就て県下代議士に檄す 最上政三

④上手になって来た玩具の撰び方

④物質の復興よりも精神復興が先決 道重信教師(談)

④せつぱつまつて「詩」 芳太郎

3日(木)

④嫁に行くのも、お絹が「詩」 芳太郎

④田園の詩趣と芸術 土と汗の世界に親め

4日(金)

④復興の途上にある日本婦人の覚悟 実際生活に猛進せよ 鳩山春子

④梅干、見習士官を送る「俳句」 浦野極作

6日(日)

④言葉の行列 笛木哀之介

④武蔵野より「手紙」 飯島貞

④女 梯威一

④失恋、うつろ「詩」 横堀真太郎

④詩二篇 幸福の愛、情欲「詩」 橋爪榛泉

④朝「詩」 大河原周夫

④銀聖の夢「詩」 畑かろし

④生活・遊戯「詩」 飯島貞

④落底 相場光郎

④睡蓮の花「短歌」 川原倫太郎

④卵を握る「短歌」 久保田安治

④旅の歌 東京湾、綱引、鋸山、白浜、おせんころがし「短歌」 不比丘

④二少女の死「短歌」 吉井忠男

8日(火)

④休暇期の児童は個性を発揮する 北沢種一(談)

④ふんべつ「詩」 芳太郎

⑤木曾の旅「俳句」 野口雨亭

9日(水)

④ほんの当座「詩」 市丸武

10日(木)

④秋の上野を彩る二科展の印象 問題の「裸女と青い布の習作」など初日の見参記

11日(金)

④第十二回目の二科を観る(1) 住谷磐根

12日(土)

④くちづけ「詩」 杉本まさし

13日(日)

④「純情小曲集」読後感 萩原朔太郎氏の近業

(1) 菊沢茂

④第二期原始へ「黒嵐時代創刊に際して」 松本淳三

④現代語短歌雑考(1) 大槻三好

(〜9月20日(2))

④爆発を忘れた太陽哀悼譜 失題、婚約「詩」 笛木哀之介

④哀愁「詩」 加藤みはる

④詩三篇 古びた秋の港、散歩、窓「詩」 小板橋一雄

④素描 中村芳太郎

④石丸梧平氏再度来橋 婦人講演会に

15日(火)

④わかれ[詩] 市丸武

⑤本社主催女子中学校庭球大会観(3) 我が国
固有の元氣は剛健な母体から生まれる感
謝と御願 香雨老人

16日(水)

④明けがらす[詩] 薦子

17日(木)

③私の草津観(1) 茅原華山 (〜9月18日(2))

④原因を極めると教育制度が悪い

④別後[詩] 南華緒・芳太郎

18日(金)

④をとこ[詩] 中村芳太郎

20日(日)

④消息的漫談 上田えいじ

④紫苑咲く頃[詩] 沢田白花

④雑唱[短歌] 梅沢周一、前原美春

④浅間山[短歌] 町田六合三

21日(月)

②姦殺犯人の家族に就て 茅原華山

22日(火)

④桃太郎さんの歴史的考察(1) 横田桃水

④村の今昔(1) 河野栄一 (〜10月11日(8))

23日(水) (〜9月23日(2))

③政界の巨星たる尾崎氏囲んで質問垂ぐ沼

田の尾崎氏演説

④広野山にて三章 幕宮、男、雲、雨後快晴

[詩] 百瀬済

25日(金)

④広野[短歌] 後藤八重子、島田善次郎、山

本和夫、草壁貢三、上村辰雄、森沢深、井
上俊夫、八島茂

④寂寥[詩] 後藤八重子

26日(土)

③張作霖將軍との会見 清水留三郎

27日(日)

④昇曙夢先生訳ロシヤお伽話 マルコとワシ

カに就いて(1) 石田喜代司 (〜10月2日(5))

30日(水)

④良ちゃんの夢[童話](1) 中村芳太郎

(〜10月6日(5))

④てんとう虫[詩] 八重子

大正14年(1925) 10月

1日(木)

④泣き虫[詩] 石川やえ子

2日(金)

④広野[詩] 俺の従順さを見よ 島本隆

治/逢た一瞬 宮本範義/三日月 亀井義

男

3日(土)

④広野[詩] 化粧、魚釣り 亀井義男/おい

兄弟 島本隆治/葡萄の熟れる頃 井上峻

夫

4日(日)

④歌集「翠微」を読み村上成之先生の遺著

大沢雅休

④遠い眠り[詩] 田中愁二

④断章十篇[詩] 菊沢茂

④赤いほづき 水島順子

④九月の心[詩] 小夜子

④恭ちゃんの詩集出版を喜ぶ 中村芳太郎

④広野[詩] 無題、青空 海老名礼太/室内

風景画、土と楽しむ 島本隆治/小景、秋

晴 丘草二/白い花(小曲) 沢田白花

7日(水)

④おやすめ[詩] 安部青雀

④恋供養[詩] 須田芳香

④ありなしの月の句会[俳句] 即吟 香川、

萩郎/天都子庵庭前 萩郎、叶秋、天都子、

大六

8日(木)

④悪魔のたわごと(1) 中原達也

(〜10月10日(3))

④広野[詩] 四季の果物 安部青雀、静かな

村落 小西渉

9日(金)

③素人の見た地方自治(1) 中村元治

(〜10月22日(8))

④広野[詩] 飛行機、夜 山室孝/街を行く

早沢清二/悔恨 松永錠太郎/葉・雨・

人 温井義信/詩の選の後に 飯島貞

11日(日)

④竹林間居、持病[短歌] 飯島貞

④写真芸術に対する一考察 番祐也

④猿田彦 川辺潤三郎

④晩秋蚕[短歌] 野口市郎

- ④短唱五篇(俺の人生考録)「詩」 梅津泰助
④広野「短歌」 中村勝、甲斐昌子、中畑うつろ、中曽根白史、杉本風水
12日(月)
③貧民窟に落ち込む大部分は地方人 花の都に憧れた人のどん詰り 椎名龍徳(談)
13日(火)
②再度の栄光 塚本氏帝展入選
14日(水)
④温泉句稿「俳句」 鈴木如友
17日(土)
④我等は余りに女子を褒め過ぎた 高島米峰(談)
④コスモス「童謡」 共愛女学校一 船津コウ
21日(水)
④法律から見た婦人の地位 男女同権を叫ぶ前に民法を見よ 中村進午(談)
④その夜の歌会「短歌」 須田衛、神沢金夫、高野喜代次、温井義信、浅川英一、小幡三智夫、伊藤信吉、温井藤衛、中村芳太郎、雨 高橋喜代次、小幡三知夫、浅川英一、温井義信
22日(木)
④子供等には性教育は無用 倉橋惣三(談)
23日(金)
④おしむすめ「詩」 中村芳太郎
24日(土)
④女の廿三四歳には離婚事件が多い
25日(日)
④恋(散文詩)「詩」 エフ、テイ、ユルレッツ、憶良倭文磨訳
④牧歌「詩」 ドラモンド、浅川英一訳
④感謝 詩集出版に際して 萩原恭次郎
④萩原恭次郎 詩集「死刑宣告」のこと 梅津錦一
④橄欖のこと 文芸係
④秋情近詠「短歌」 植村祐三
④秋三題 愁ひ、友思ふ、虫と女「短歌」 天田与一
④旅雑唱「短歌」 小幡三知夫
27日(火)
④現代婦人の務は趣味の実益化 吉田若枝(談)
28日(水)
④僻地へ行く程温泉の効がある 真鍋嘉一郎(談)
⑤口を開いたかと思ふと演説中止命令 警官にコップを投げて検束者を出した桐生の近代思想講演会一幕
30日(金)
④夕日、赤い花「詩」 共愛女学校一 蟻川峰子
④女は金に走り男は色を漁る
④厳格な家の子が不良少年となつた 林主任(談)
31日(土)
④夕方、姫日まはり「詩」 共愛女学校一 若井さく
④九・十月詩歌壇短評(1) 飯島貞(11月7日④)
大正14年(1925) 11月
3日(火)
④温泉の秋(伊香保)「俳句」 天都子、大六
4日(水)
④無神の信仰 斉藤一
④「花と別離」を読む 浅川英一 君歌集 大沢雅休
④竹林間居「短歌」 飯島貞
④雨、雲の流れ「詩」 後藤八重子
④散歩、初秋の二階「詩」 平田千都子
④秋意 夕暮正美
④初秋果樹園「短歌」 久保田安治
5日(木)
④「詩」 蜻蛉 共愛女学校一 樋口とく子、月 同 原沢辛長子
6日(金)
④婦人問題の解決は婦選の獲得にある
7日(土)
④農村の好景気と勤儉週間の徹底 長岡社会局長官(談)
④農業保険の話(1) 叶内松太郎(11月17日③)
8日(日)
④帝展洋画の慢感(1) 住谷磐根(11月13日③)
④城山堂と詩の会 ちの字
④「花と別離」小感 茂木幹

- ④別離、失題「詩」 橋爪榛泉
 ④殺人光線「詩」 梅沢泰助
 ④広野「詩」 芙蓉、海に向つて 小林芳月／ある日曜日の出来事 山中杏／秋 藤原美世志
 ④城山堂主人に 赤城馬平
 10日(火)
 ④温泉病窓句稿「俳句」 鈴木如友
 ④進歩的で完全な米国の読書法 日比谷図書館調査主任那波(談)
 ④警戒を要する子供の義侠心 林主任(談)
 11日(水)
 ③妙義の一日 清水
 ④実際のな仕事を幼少年に与へよ 小向喜美子(談)
 ④広野「詩」 雨あがり、月と白い雲 藤原美世志／花のない部屋 紫城ひさ緒／利根河畔にて 一倉秋香
 12日(木)
 ④国辱とも云ふべき婦女売買問題 久布白落実(談)
 ④離乳が遅れると低能児になる 三野医学士(談)
 ④広野「詩」 街上 中畑宇都路／秋の故里 中曾根白史／小川の流 柳井峰緑
 13日(金)
 ④欧米の社会状態と職業婦人の出現 嘉悦孝子(談)
 15日(日)
 ④里見氏作「石門の奥に」を再び読んで(1) 飯島勇 (11月22日(2))
 ④「詩」 太陽 飯田鬼顔／おもいで 中畑うつろ
 ④復讐 倉田修
 ④詩集「虚無」出版について 笛木哀之介
 ④いなめの五句集「俳句」 芋 香山、溪雨、雨村楼、芹雨、青楓、天都子、東山、大六、寛哉、一鳳
 ④広野「詩」 印象 草壁無巢／こども 川島与八郎／秋の空 粕谷陽二／星と人 松本光夫／無題 中島重彦／病床 松本光夫／秋 中島重彦／お小夜 水摩陽一
 17日(火)
 ④鉱石で東京が聴えます(1) 森寅二 (11月19日(3))
 ④ラヂオが教育界に大革命を齎すのは遠き将来ではない 服部放送部長(談)
 19日(木)
 ④社会の悪が生む不良児保護教育
 ④えんどう「詩」 粕谷陽二
 ④帝展の話 西洋画に就いて(1) 大隈為三 (11月21日(2))
 22日(日)
 ④月夜の利根川「詩」 菊沢茂
 ④新菊の香「短歌」 鈴木韋舟
 ④歌集松の花を読んで 松崎南華雄
 ④広野「詩」 旅立 宮本範義／寂しい事を、ぼんをどり 中村勝／おらの宿 杉本徳弥
 23日(月)
 ②英雄論(1) 横山健堂(述) (12月3日(7))
 27日(金)
 ④家庭の生活は子供本位にせよ 堀七蔵(談)
 28日(土)
 ④文化の発達につれて社会が殺伐になる 杉田樹(談)
 ④広野「詩」 印象画(飯島貞先生に捧ぐ) 海老名礼太／夏の女性、病める女性 北野耕／夕暮の想ひ 藤原美世志
 29日(日)
 ④多数決に於ける合理の窮乏 斉藤一
 ④処女性その他 K
 ④帰去来辞(その二)「短歌」 須藤泰一郎
 ④近頃の苦笑 上田えいじ
 ④「短歌」 一倉秋香、松浦畔樹、鈴木丈司
 大正14年(1925) 12月
 1日(火)
 ④情操を唆る「もみぢ」の歌 万葉古今その他の歌集の中から
 ④秋の河端「詩」 横堀真太郎
 2日(水)
 ④愛に遠ざかり易い現代社会の父と子 小向喜美子(談)
 3日(木)
 ④不景気を裏切る大繁昌の雑誌界
 4日(金)
 ④男子の性病の有無を確めて結婚せよ 栗本庸勝(談)

6日(日)

④巫の口を通じて現はれたる正行の亡霊 根本

④保渡田にて「短歌」塚越麗一

④淋しい心 神倉長次郎

④日本の風(新試作一)「詩」清水房之丞

④虚無心「詩」梅津泰助

④夜の苦悶「詩」小林誠治

④まぼろし「詩」橋爪榛泉

④レターを焚く女「詩」佐藤八郎

④夜「詩」小林ツネ子

10日(木)

③参宮団より 刀水

④河原のやなぎ「詩」共愛女学校一 杉山菊

江

11日(金)

④生命を生せ 他に犠牲を出さずに 武者小路実篤(談)

④休み「詩」共愛女学校一 藤記文江

12日(土)

④人生を如何にして生きて行くか 賀川豊彦

13日(日)

④選集を出す小川未明氏 神田重陽

④いのちの旅「詩」森大喜治

④批評漫言 附英美子と橘不二雄の詩集を読む(1) 大島総一 (翌年1月24日(3))

④大関五郎氏のことその他 柳芳太郎

④金蓮華集「短歌」落葉の頃 岩上蓉子／霜の朝 松井岩居／麦時 井野寛平／病母

内田嘉蔵／秋の光 久保田清吉

④広野「詩」百貨店 松永錠太郎／朝欣び、秋の野 藤原美世志／「歌謡」夕月(小曲)

奈雲春浪／「童話」風と木の葉、こんぱんは 岸忠茂／詩の後に 飯島貞

16日(水)

④破芭蕉句会報「俳句」雑 高柳聖子、小林虹村、上野自然人、中野亀鶴、深谷風雲子、尾上然子

17日(木)

④農村の副業に農民美術の試み フランスやロシヤでは国富が増した

18日(金)

④野獣を作る様な現代教育を改めよ 大石正巳(談)

④経済意識に欠乏と婦人に及す影響 嘉悦孝子(談)

19日(土)

④大人物は総て地方から生れる 渡辺東京女子専門学校長(談)

21日(月)

③児童の保護運動に就て 久保田喜代太郎 (2)のみ確認

22日(火)

④文化生活の目標 来本馬吉(談)

24日(木)

④前科者の子供は寛大に取扱へ 植田少年審判所長(談)

26日(土)

④文明人の糶り易い神経衰弱の予防 杉田直樹(談)

④武器では護れぬ貞操は心で護れ 岸本市太郎(談)

大正15年(1926) 1月

1日(金)

①首春叙情

②新上毛魂(1) 野間清治 (1月3日(2))

③上毛讃歌「短歌」 渡辺光風

⑤丙寅歲朝恭賦「漢詩」 宸題河水清、新年即事 星野亀雄／恭賦勅題河水清 原田龍雄

⑥絶対に大人を交へて遊んではからぬ 子供には子供の世界で飽くまでも自由に 茂木(談)

⑥天国めぐり「童話」(1) 山本雅樹 (1月7日(3))

⑥おしよがつ「童謡」 伊藤信吉

⑥妻のくせ(小唄)「歌謡」 芳太郎

⑥「綴方」ウチノトラ 永明校尋一小林正治、或る晩 古南校尋三 阿部竹雄、私のもの木 沼田小尋三 金子幸太郎、秋の夜の家 桃井校尋五 根岸謹爾、私のあやまり 中川校尋六 関谷タケ／「童謡」 枯木 駒寄小尋四 西川政雄、母のない妹 宮城校尋五 北爪ふじ、雪 南佐久郡農林学校一加藤亀雄、小鬼 元惣社校高二 石井鷲男 (コドモノ世界)

⑦東歌一首 大沢雅休

- ⑦心の富 浦野芳雄
- ⑦置時計は健康である「短歌」 飯島貞
- ⑦玉くしげ「短歌」 伊藤左千夫
- ⑦出津の子ら「短歌」 吉植庄亮
- ⑦帰去来辞「短歌」 須藤泰一郎
- ⑦冬の日郊外「短歌」 久保田安治
- ⑦われ二十六「短歌」 川辺潤三郎
- ⑦高原にて「短歌」 茂木近之助
- ⑦新居詠草「短歌」 柳芳太郎
- ⑦雑詠ふたつ「短歌」 松崎南華緒
- ⑦現代語短歌漫語 大槻三好
- ⑦貧しい百姓 水島三余子
- ⑦宝玉集「詩」 無趣味の風景 浅川英一／こぎれ 後藤八重子／小曲二章 公園の思ひ出、別れ 平田千都子
- ⑧細民子弟教育 児童教育と細民問題 椎名龍徳(談)
- ⑨歴史に現はれたる虎 一嘯子
- ⑬鶴 飯塚啓(談)
- ⑰虎の爪「小説」 白石実三
- ⑳とら屋の娘「講談」 坂東太郎(小寺耕嶺5日(火))
- ㉓虎の子小判「落語」(1) 月の家鏡丸(演) (ゝ1月9日(3))
- ㉕アメリカ土産(1) 鈴木惣太郎 (ゝ9月26日(152)まで確認)
- 7日(木)
- ③河水清、桜「短歌」 林愛作
- ④時代劇潮(1) 佐藤紅緑 (ゝ1月13日(5))

- 8日(金)
- ④良人は対外的に妻は内的に励め 鳩山春子(談)
- ④花咲かず「詩」 芳太郎
- 9日(土)
- ④子を愛する方法を誤った親が多い
- ④少年俳壇「俳句」 桃井校尋五 正雄、秀雄、一陽、六良、正三、川岸、北村、良雄、高野、赤羽、上野、上田、貞雄、八郎、富四郎、小保方要太郎
- 10日(日)
- ④教員の雑感 第一小説集を出すに当つて 大沢雅休
- ④おきみ、夜の会話「詩」 大関五郎
- ④謎かしら、お菊さん「詩」 柳芳太郎
- ④片恋、笹山「詩」 松崎南華緒
- 12日(火)
- ④男女同権でも女の体質は弱い 大和田政実(談)
- ④「詩」 たこあげ 秋畑校尋四 新部清治、星 古南校 真庭隆三、雪の庭 川田校尋五 茂木真、お月さん、氷 箕輪校高二戸塚 久雄 (ゝコドモノクニ)
- 14日(木)
- ④音楽を普及させて美しい田園を作れ 三輪田元道(談)
- ④めをと鍵「詩」 北山つる子
- ⑤上州と木喰上人 敢て郷土史家の調査を望む 柳宗悦

- 15日(金)
- ④進化論の教へる猿か人かの実證 山内繁雄(談)
- 16日(土)
- ④「短歌」 森太貴樹、小野里照親、川端刺青
- 17日(日)
- ④一月の感想 塩野筭三
- ④講演会雑誌 平野羊村
- ④「短歌」 石川竹緒、船津重雄、宮下菊二郎
- 19日(火)
- ②宮中歌御会始
- ④大人本位の映画は子供には見せるな 内務省田島(談)
- 20日(水)
- ③売笑婦の歴史は世界文化史(1) 栗本庸勝(ゝ1月23日(4))
- 21日(木)
- ④何時も問題となる入学試験の害 三輪田元道(談)
- 22日(金)
- ③最近また問題になった学生風紀問題
- ⑤岡部教諭の郷土講演 けふ三次発表
- 23日(土)
- ④紙風せん「童謡」 柳芳太郎
- ④名苑虎の子渡 竹内
- 24日(日)
- ④ある青年の詩論 久野頌悦
- ④明るい心「詩」 菊沢茂
- ④前橋新年歌会詠草「短歌」 須藤泰一郎、神

保冷平、東林城、野口市郎、大沢雅休、鈴木葦舟、住谷三郎、南大樹

④十日十人会「短歌」飯島貞

④個性会短歌会 葦舟

④個性会短歌会「短歌」光 市川たかし、須藤泰一郎、大沢雅休、田島丑太／雑詠 須藤泰一郎、大沢雅休、藤波郁子、亀井かずを、関根庄策

④「詩華園」のこと 田辺耕一郎

④「詩」 大関五郎

④「短歌」 吉井忠男、星野涼咲、伊能彦造、橋本翠山、松本彦三郎、宮沢錦子

27日(水)

④「綴方」 柿もぎ 薄根小尋六 七五三木ゆき／「詩」 ざくろのお家 沼田小尋三 吉原義正、よめご 新高尾小尋三 金井千代、すゝきの穂 駒寄小尋四 中島正之

28日(木)

④「綴方」 お正月 粕川校尋六 中沢ふく、汽車 駒寄小尋四 梅村三郎／「詩」 ながれ星 宮城校尋五 青木こと、たのしい正月 同 石川まさの、木の葉 同 磯田正男

30日(土)

④欠点を責めると子供の心が歪む 前田誠孝 (談)

④「短歌」 森山波瑠子、船津重雄、宮前つる、

星野涼咲、渡辺恒雄、福島三郎

31日(日)

④培養する心について 歌集「龍膽」に序す 橋田東声

④葱の香 柳雅兄に上ぐ「短歌」 太喜治

④来朝を伝へられてゐるサヴェート・ロシヤの作家(1) 石田喜代司 (1)まで確認

④小野里照親君の結婚を祝ふて「短歌」 大沢雅休、峰岸義秋、柳芳太郎

④詩雑誌「銅羅」のことを一言 岡田刀水士

大正15年(1936) 2月

3日(水)

④子供の音楽教育は子守唄から始めよ 山田耕作 (談)

④雪ぐつ「童謡」 柳芳太郎

④婦人の医学的観察と批判(1) 金杉英五郎 (2月6日(2))

4日(木)

④婦人の真の力を男性に痛感させよ 嘉悦孝子 (談)

④金針流鉛筆書の綴り方を透して見たる母を慕ふおさな児の心 星野老訓導の研究 (子供の国)

5日(金)

④子供の遊びは仕事即生活である 寺田秀雄 (談)

④「短歌」 角田岩雄、松井千草、平井きゆう、萩原めづめ

9日(火)

④学齡児童の本能的驚怖心を治せ 堀七蔵 (談)

10日(水)

④古手紙「詩」 柳芳太郎

11日(木)

④酒女賭博が男性の三大嗜好 杉田直樹(談)

④身が細る「詩」 針谷しよを

④破れ芭蕉句会「俳句」 万葉、聖子、風雲子、蕉子、然子、自然人

14日(日)

③本社の自祝と本紙の大拡張

④中野より「随筆」、悶え、マドロスパイプ「詩」 大関五郎

④断言 梅津泰助

④静吟抄「短歌」 森大貴樹

④詩論小感 高山要

④塚本君の事 針谷しよを

④歌会形式是非 大槻三好

④十五年歌壇の収穫 大島居金氏の近業を評す 飯島貞

④赤いころ(2) 吉野陽 (2)から確認

15日(月)

①維新秘録 七曜の剣「講談」(1) 渡辺黙禪 (11月10日夕(50))

16日(火)

④冬景淋し「俳句」 浦野芳雄

17日(水)

④師におくる 奈良先生へ「詩」 加藤みはる

⑤群馬郡国府村の国分寺の跡が昨日史蹟に指

定

18日(木)

④貧乏は遺伝 恐るべき酒の及す害毒 賀川
豊彦(談)

19日(金)

③群馬自由大学 文学論を開講

④子供の悪化防止に美術工芸を教へよ 青柳
茂晴(談)④一体日本の男女は何歳が丁年か 高島米峯
(談)

20日(土)

④親でも誤解する神経質の児童 堀七蔵(談)

21日(日)

③関孝和先生の建碑に就きて(1) 両毛
(2月22日)

(2)

④大地は育つ 梅沢武雄

④審判[詩] 高橋充夫

④冬の歌[詩] 高橋金吉

④旅行、温泉[詩] 岡部宇一郎

④わが悩み[詩] 柳井峰緑

④たそがれ[詩] 清水基美

④遍路者の背から[詩] 畑広治

④初夏の賦[詩] 小林仲艸

④朝明の空[詩] 小林せい路

④空虚[詩] 篠原ひで緒

④くき[短歌] 飯島貞

④病院から[短歌] 大槻三好

④尾瀬沼[短歌] 吉井忠男

22日(月)

③明治の俳聖鳴雪逝く

23日(火)

④おいなりさん[詩] 柳芳太郎

④[短歌] 町田六合三、新井明太郎

25日(木)

④[短歌] 柳井鶴安、掛川英太郎、中山輝月

26日(金)

④公園[童謡] 春*

⑤白石実三氏活躍 博文館編輯局改革に学生
及少年部総轄

27日(土)

④ヒステリーは手術で治る ヒステリーはす
べて子宮の病氣から 西郷司(談)

28日(日)

④風景と感想とある日のノートから 飯島貞
郎④独唱[短歌] 暮れの歌、一月の歌 住谷三
郎

④松風寒居[短歌] 森太貴治

④新進詩人集[詩] 野に坐して、冬のある晩
北沢敏/闇の花、雲雀 中村勝/更生海老名礼太/燕の消息 横堀真太郎君に
菊池光好/静夜 加藤みはる/孤独なも
の、吹き 中村京子/風二題、冬よ 橋爪
榛泉

④詩歌時代創刊について 若山牧水

④理想展覧会規約 横井弘三

④女流詩歌雑誌「リラの花」創刊「リラの花」
編輯部

④雑誌「明日」の発刊 横堀真太郎

④綜合芸術協会設立の言葉
大正15年(1926) 3月

2日(火)

④鯨の行方[童話](1) 大泉黒石
(3月11日)⑥おぎん[小説](1) 大平野虹
(翌年1月22日夕)

3日(水)

④[短歌] 岡田房吉、土屋栄雄

4日(木)

④婦人の宗教的純情で荒んだ社会を救へ 瀬
川八十雄(談)④[短歌] 林照夫、船津重雄、石田雄次郎、
小池和丙

5日(金)

④児童の保護教化に「兄弟会」を作れ 小野
清一郎(談)

④もだえ[詩] 柳芳太郎

6日(土)

④[短歌] 永井是郎、青木春陽、長谷川道
7日(日)③地方色を発揮する農民美術を奨励 閑暇利
用の副業として 農林省の助長奨励対策④教育の問題 長沢三郎君訳書「生ける宇宙」
を読む 東宮七男

④春日雑歌[短歌] 藤倉肇

④早春を行く[短歌] 大野滴露

④春蘭[短歌] 大沢雅休

④雑誌[短歌] 鈴木葦舟

- ④住谷氏の独唱を讀みて 久保田安治
 ④新進詩人集「詩」 岩神旧街道 菊沢茂／
 栗の花 前原美春／明盛のたより 丘瑠璃
 夫／青空に消江るもの 海老名礼太／高原
 詩篇 高橋加津二
 ④無題(1) 川浦四郎 (1)まで確認
 ④青き文字「詩」 谷秋美
 ④詩集「詩」 小野里照親
 9日(火)
 ④染織の神話と伝説 保倉神と蚕の話 木下
 龍雄
 ④金魚「俳句」 女師尋三 森下茂登子
 10日(水)
 ④秋の山「俳句」 久留馬校尋六 島田時三郎
 11日(木)
 ④高価な精巧品より単純な玩具がよい 堀七
 蔵(談)
 12日(金)
 ④十三人目の少年「童話」(1) 井上康文
 (3月20日(7))
 13日(土)
 ③関孝和先生の建碑に就て 鹿島増蔵
 ④一人二役の話(1) (3月17日(3))
 14日(日)
 ④青年の問題 何を為すべきか 東宮七男
 ④歌集「りんだう」のこと 塚越麗一
 ④上毛綜合芸術協会の性質 萩原恭次郎
 ④足袋を脱いで「詩」 飯島貞
 ④北国行「短歌」 中村元治
 ④どん栗と土「短歌」 松本良三
 19日(金)
 ④妊娠率の最高期に婦人は結婚せよ 寺田幸
 次(談)
 21日(日)
 ④歌集「龍膽」を読む 斉藤游雲
 ④亜麻の花 北海道歌抄「短歌」 吹雲、寒瀧、
 榛の垂り花、亜麻の* 大沢雅休
 ④北海道特有の歌境 小田観螢
 ④大沢雅休の歌 須藤泰一郎
 ④頭を下げる心もち 乾千鶴子
 ④本居長世氏の印象 横堀真太郎
 23日(火)
 ④親は無く共子は育つ然し智能は鈍る 父母
 の養育期間と児童智能の関係 谷口政秀
 ④忠兵衛さん「童話」(1) 仲木良一
 (4月6日夕(11))
 24日(水)
 ④春「詩」 柳芳太郎
 25日(木)
 ③春の旅路(1) 北関山人 (4月1日(6))
 26日(金)
 ④永久に婦人としての尊厳は女性にある 無
 意味な男女同権論 重大使命に目醒めよ
 紀平正美(談)
 28日(日)
 ④不思議は物体である(散文詩)「詩」 飯島
 貞
 ④加藤光造君の芸術を思ふ 飯島貞
 ④徒然の歌「短歌」 宮城野豊
 ④農村への芸術的浸潤 歌集龍膽を読む 相
 馬御風
 ④聖なる感激 龍膽を頂いて 中島哀涙
 ④龍膽出版記念会「短歌」 大沢雅休、大沢い
 よ、臼井大翼、尋五 井村鶴雄、尋五 尾崎
 章、野口市郎、内田ふじの、篠原紫茂子、
 松村吐秋、須藤春子、須藤泰一郎、泉祐吉、
 小野里照親、東林城、関寛、倉田春造
 ④師範校短歌会「短歌」 大沢雅休、斉藤双
 山、東林城、浅川英一、柳芳太郎、石黒量
 太郎、飯塚明三郎、中野信治、茂木信太郎、
 晴木基美、木村冉、小沢曾六、大崎歳市、
 阿部四郎、金井清、池田左喜
 30日(火)
 ④おこりん坊「童謡」 柳芳太郎
 ④月の花はひなぎく 花咲き蕨萌ゆる四月の
 解説 蜀山人の歌其他の話
 ④永遠に絶へぬ生命のリズム(1) 永井潜(談)
 (3月31日(2))
 31日(水)
 ④独想「詩」 加藤みはる
 ④編物をした夜「綴方」 薄根校尋六 春日
 たね (3月31日(2))
 (3月31日(2))